



三協立山グループ

CSR報告書2016

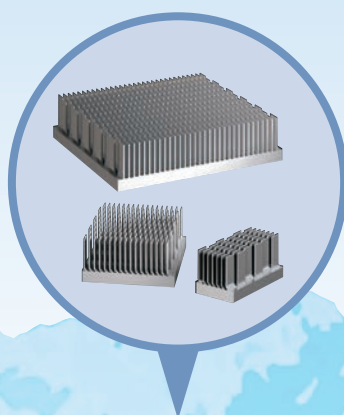
Sankyo-Tateyama Group
Corporate Social Responsibility Report



『環境技術でひらく、豊かな暮らし』を実現する企業グループへ

“Green Technology=環境技術”とは、「地球環境の改善に関わるあらゆる技術」のこと。例えば、省エネ、再生可能(自然)エネルギー使用、CO₂などの温室効果ガス排出削減、水質汚染防止などの環境負荷低減のための活動に用いられるさまざまな技術の総称です。

三協立山グループの技術力を集結し、環境配慮型商品・素材・空間によって新しい価値を創造し、人々の豊かな暮らしを実現する企業グループへ。



Contents

ごあいさつ	P. 3 ~	CSR 活動の推進	P. 9 ~
【特集1】		社会性報告	P.13 ~
高水密カーテンウォール「NL-R NAV」にかける 「私たちの思い」	P. 5 ~	商品における取り組み	P.23 ~
【特集2】		環境への取り組み	P.29 ~
新アルミ樹脂複合サッシ「ALGEO」にかける 「私たちの思い」	P. 7 ~	第三者意見	P.46 ~
		三協立山会社概要	P.47 ~

- ビル事業
- STER事業
- 住宅事業
- エクステリア事業

建材事業
〈三協アルミ社〉

国際事業

- 海外での
アルミ鋳造・押出・加工

Life with Green Technology

- アルミ押出型材
- アルミビレット
- マグネシウム

マテリアル事業
〈三協マテリアル社〉

商業施設事業
〈タチヤマアドバンス社〉

- 商業施設
- サイン
- ショップサービス



シンボルマーク「ツインリーフ」



ハート型の葉を持つ新芽のマークは、覚えやすく親しみやすいかたちです。このマークを介して、お客様、お得意様、株主・投資家の皆様はもちろん、地域の方々や社員との良好なコミュニケーションを築けるように願っています。人と人、社会と企業というつながりをフリーハンドの曲線でやわらかく表現し、シンボル化しています。「社会と私たち」「お客様と私たち」「環境と私たち」・・・など“心と心をつなぐシンボル”として位置付けています。



代表取締役社長
山下 清胤

■ 健全な企業活動のために

わたしたちは、社会から信頼されながら、かつ継続的に発展することを望まれる企業となるため、企業の社会的責任を果たす4原則と行動規範を定めた「CSR憲章・CSR行動規範」を2007年に制定しました。

また、全役職員が、当社グループの社会的な使命と責任を認識し、法令・企業倫理・社内規程を誠実に遵守するよう定めた「コンプライアンス行動基準」を2005年に制定しました。この「CSR憲章・CSR行動規範」と「コンプライアンス行動基準」は、“小冊子”にして全役職員に配布し、日々の企業活動や個人行動の規範としています。

■ 地域社会の一員として

わたしたちは、企業市民としての役割を自覚し、地域社会に密着した社会貢献活動を積極的に行っています。今年度は、新たに2つの社会貢献活動をスタートしました。高岡市と共同で行った保育園児への「環境教室」と、当社工場がある射水市の「海岸清掃活動」です。

また、2013年から実施している「全社一斉清掃活動」や産業観光振興のための「アルミ工場見学受け入れ」などを今後も継続し、地域社会の一員として、社会から信頼され愛される企業を目指してまいります。

■ 持続可能な未来のために

わたしたちは、「創ろう美しい地球を」をスローガンに、低炭素社会と循環型社会の実現に貢献する環境配慮商品の開発に積極的に取り組んでいます。たとえば、家庭やオフィスの省エネルギーにつながる、自然風を利用した環境建材や高断熱商品、リサイクル材を利用したエコ商品などです。また、環境保全活動の一環として2013年から継続している森づくり活動「ツインリーフの森づくり」では、当社従業員とその家族のボランティアにより、これまでに1500本の苗木を植樹しました。

本年のG7伊勢志摩サミットに先立ち、富山で開催されたG7富山環境大臣会合は、地球環境問題を協議する重要な政策対話の場となりました。当社も推進協力委員会の協賛企業として、人員の派遣や富山環境展などに参画させていただき、地球環境保全の重要性をあらためて認識する良い機会となりました。これを契機として、環境保全対策にさらに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

わたしたちは、2011年に掲げた長期ビジョン2020「環境技術でひらく、豊かな暮らし」を実現する企業グループとして、これからも地球環境や社会との調和を図りながら、持続可能な未来の発展に貢献してまいります。

経営理念と行動指針

三協立山グループは、創業の原点である「お客様」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神に基づいた経営理念のもと、健全な企業活動を通じて社会に貢献していくことが、私たちの使命であると考えています。

経営理念

お客様・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

行動指針

私たちは

①お客様満足

常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。

②価値創造

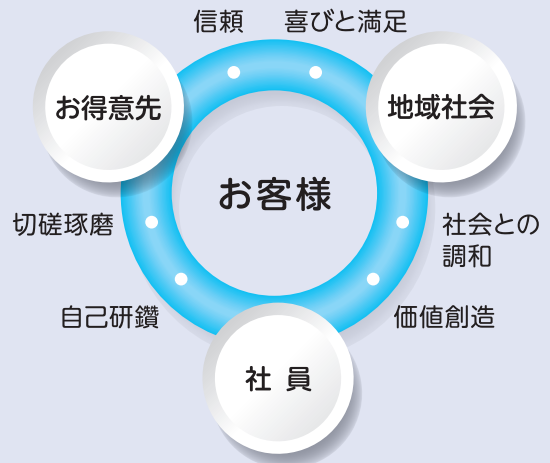
技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。

③社会との調和

環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。

④自己研鑽

自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。



CSR憲章

総則

三協立山グループは、社会から信頼されながら、かつ継続的に発展することを望まれる企業となるため、企業の社会に対する責任（CSR: Corporate Social Responsibility）を果たす以下の4つの原則に基づいて行動します。

CSR
Corporate Social Responsibility

企業の
社会的責任

原則

[1]健全な企業活動

- ①お客様の立場で行動し、お客様の立場に立った商品・サービスを提供します。
- ②法令・企業倫理等を遵守し、公正で自由な競争を行うとともに、公的機関とは透明かつ厳正な関係を維持します。
- ③会社に不利益となる行為を禁止し、反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨みます。
- ④会社の情報、財産、資産およびお客様の情報は、厳重かつ適正な管理を行います。

[2]社会との調和

- ①国内外の文化・習慣を尊重するとともに、社会貢献活動を積極的に行います。

[3]環境との調和

- ①自ら責任を持ち、環境保全活動に取り組むとともに、積極的に地域活動に参画し、社会に貢献します。
- ②環境負荷の少ない商品を優先的に提供するとともに、積極的に技術革新の活用を図ります。

[4]人間尊重

- ①全ての人々の基本的人権を尊重し、安心して健康な働きやすい職場環境を築きます。

心地よい風だけを通す技術で、 高層ビルの省エネルギーを実現します。

カーテンウォールはビルの外壁として用いられる建材で、軽くて強靱なアルミが素材として適しているため、当社でも各種のカーテンウォールを製造・販売しています。今回、当社のスタンダードカーテンウォールである「NL-R」に、自然換気機能を採用した「NL-R NAV (ナビ)」をバリエーション追加しました。

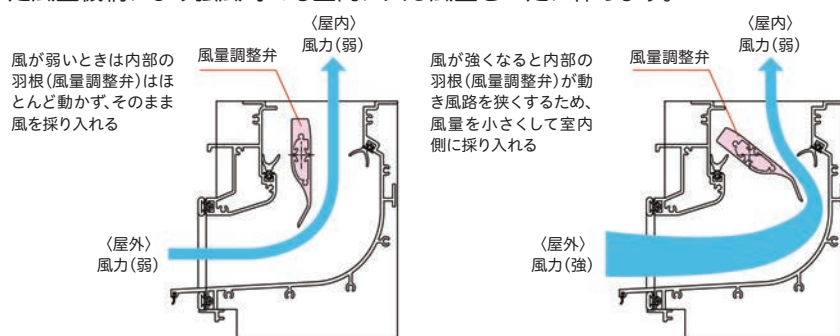
商品の概要

自然換気機能により、開口部が少ないカーテンウォールなどにおいても外の新鮮な空気を取り入れることができ、建物の省エネルギー性を高めます。

商品特長

1. よこ型定風量換気スリット

足元や腰部にスッキリと納まるよこ型の定風量換気スリットです。定風量機構により強風時でも室内に入る風量を一定に保ちます。



「NL-R NAV」にかけた思い

自然換気のノウハウで、社会のニーズに応えていきます。



三協アルミ社 商品企画部 商品企画課
朝内 文博

昨今、大型ビルの省エネルギー化^{*}が求められています。空調エネルギーの節約はもちろんですが、電力不足による計画停電あるいは災害による停電等、空調ができなくなった場合も考慮しておく必要があります。こうした社会的なニーズに対して、当社では「建築物に呼吸させる」という独自のコンセプトで商品づくりに取り組んでいます。

「NL-R NAV」はそうした取り組みの成果の一つです。カーテンウォールの場合、呼吸させるためには隙間を設けると同時に、高い水密性能も確保しなければなりません。そのため、定風量機構を持つ「定風量換気スリット」や、外気と等圧の空間を設けることで雨水の浸入を防止する「よこ型換気スリット」といった装置を組み込むことで、国内最高水準の水密性能を実現しています。

また、こうした自然換気装置は、建物の立地条件を踏まえて取り付けなければならないため、当社はさまざまな建物・条件におけるノウハウを蓄積しています。風の受け方、窓の位置などについては、ビルの企画・設計段階から関わって、専門的な立場から提案を行っています。

今後も当社は独自の発想で多様な自然換気商品を展開し、ビルなど大型物件の省エネルギーに貢献していく考えです。

^{*}建築物エネルギー消費性能向上法が2017年4月から一部施行。新たに大型の店舗やオフィスビルなど延べ床面積2,000平方メートル以上の建築物を建てる際、省エネ基準を満たすことが義務づけられた。

商品の詳細は
右記 URL へ

http://buildingsash.net/products/cw/vertical/nl_r/



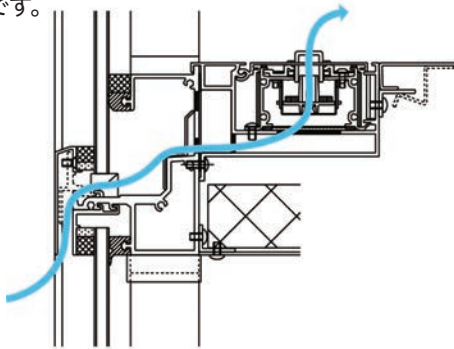
耐風圧性
圧力
2400Pa

水密性
圧力
1000Pa

500Pa
バランス式逆流防止窓

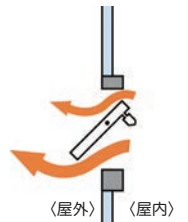
2. よこ型換気スリット

足元や腰部にスッキリと納まるよこ型換気スリットです。

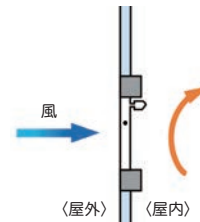


3. バランス式逆流防止窓 スウィンドウ

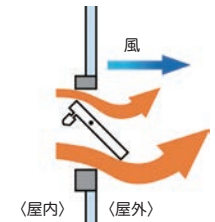
自然のエネルギーである温度差や風の力を利用して、効率的な自然換気が可能です。



風がないと開くので
室内の熱気を外に
排出します。



風を受けると閉まる
ので風による熱気逆
流を防ぎます。



風で引かれると開く
ので風の力により排
気を促進します。

「NL-R NAV」にかけた思い

「エネルギーを使わずに換気をする」という発想を追求しました。

「窓」のメーカーである当社ではこれまで窓の機能である自然な「換気」ということについて、より積極的な立場から幾つかの商品を開発してきました。その一つが2004年に発売した「バランス式逆流防止窓 スウィンドウ」です。「スウィンドウ」はビルの階段室や吹き抜け部分に設置することで内外の温度差や風力によって換気を行う装置で、電気などの動力は全く使いません。雨が降ったり、強風が吹いた時はセンサが感知して自動的に閉鎖します。空調エネルギーの節約になるため、発売以来、学校、図書館など多くの施設に採用頂いています。

「定風量換気スリット」もまた、人工のエネルギーを使わずに換気を行うもので、風量調整弁を用いた定風量機構により、強風時でも室内に入る風量を一定に保ちます。窓を開けることが難しい高層ビルや高層マンションなどで外気を取り入れたい場合に役立っています。

こうした自然換気機能を持つ商品を、ビルの外壁であるカーテンウォールに組み込もうというのが、今回発売した「NL-R NAV」のコンセプトです。中高層ビルでは窓の開閉が難しい場合が多く、こうした自然換気装置の採用で外気を適切に取り入れることができれば、空調エネルギーの節減につながります。また、気密性の高いビルにおいて換気を行うことは、心地よい空間の実現にもつながるので、今後の普及が期待されています。



三協アルミ社 商品企画部 商品開発一課
網谷 志郎

耐久性に優れた「アルミ」、断熱性に優れた「樹脂」。 それぞれの特性を最大限生かしたアルミ樹脂複合サッシ「ALGEO」。

世の中の省資源、省エネルギーへのニーズの高まりから、住宅用サッシにおいても断熱性能の一層の向上が望まれています。そこで、数年前から、次世代を担うサッシの開発に取り組み、断熱性能をはじめサッシに求められる性能についてレベルアップを図り、2015年10月に「ALGEO(アルジオ)」として発売しました。

商品の
概要

厳しい環境に負けない **強靱性能**
Toughness
Kindness カインドネス
 住もう人に優しい **思いやり性能**



室外側
アルミ
耐久性

室内側
樹脂
断熱性

「ALGEO」にかけた思い

今、ユーザーがサッシに求めていることは何か、それを徹底的に追求しました。

私は、入社以来従来の主力サッシのさまざまな応用展開に携わってきました。サッシの本格的なリニューアルプロジェクトに加わることは初めてでしたが、これまでの経験を生かしたいと考えていました。

市場では、住宅における2020年省エネ基準義務化^{※1}や建材のトップランナー制度導入^{※2}に伴い、各メーカーで数年前から特に断熱性能

にこだわった新商品の投入が見られていました。当社でも主力サッシの10年ぶりのモデルチェンジに期待が高まる中、まずは断熱性能を向上させることを目的にプロジェクトを推進しました。

しかし、企画を進めていく中で、ユーザーがサッシに望むことは断熱性能だけではないのでは?と思いました。企画チームでもユーザー視点に立って今一度コンセプトを見直そうということになり、全国各エリアの情報を可能な限り集めました。集まった情報を分析すると、ゲリラ豪雨や台風の大型化など近年の異常気象を背景に耐風圧性や水密性などサッシの耐久性能にもユーザーの関心が高まっていることが分かりました。さらに、全国の30代~60代の住まい手約460名に窓に関するお困りごと調査を行ったところ、お手入れのしやすさや操作性に高いニーズがあることが分かりました。

こうして、断熱性だけではなく、サッシに求められる性能を総合的に捉え、強さや使いやすさなどをすべてにわたってレベルアップするという他社にないコンセプトが生まれたのです。新型サッシ「アルジオ」は、アルミ樹脂複合サッシの長所を最大化する商品となっています。

※1 住宅を新築する際に新しい省エネ基準に適合させることが2020年に義務化される予定。

※2 建材(サッシ)を販売・輸入するメーカーは、目標基準年までに出荷する製品の加重平均の断熱性能が目標性能値を達成すること、併せて製品の性能について表示を求められています。



三協アルミ社 商品企画部 商品企画課
野本 大

商品の詳細は
右記URLへ

<http://alumi.st-grp.co.jp/products/window/algeo/>



耐風圧性
S-4
圧力
2000Pa

水密性
W-5
圧力
500Pa

断熱性
H-6
トリプルガラス
H-5
複層ガラス



商品特長

近年では、異常気象や自然災害が増加。ワンランク上の耐久性・断熱性が求められています。快適に住み続けるために、「アルジオ」は厳しい環境に負けないよう、高い断熱性はもちろん、高い耐久性を実現。さらに、開閉のしやすさ、お手入れの簡単さなど、住まう人への優しさもプラス。強さと優しさで家族の笑顔を守ります。



豪雨にも・強風にも負けない強さ

●雨風に強い



手間なく、お掃除ラクラク！フラットレール

●お手入れ簡単フラットレール

「ALGEO」にかけた思い

耐久性、断熱性、そして使いやすさも兼ね備えた画期的な住宅用サッシです。

近年、窓市場では断熱性能を高めるために、アルミを使わない樹脂だけの「樹脂サッシ」が登場しています。確かに樹脂はアルミに比べてはるかに熱伝導率が低いので、断熱性が高いサッシであることは事実です。しかし、当社は長年月にわたって使用されることが前提となる住宅建材、特に窓サッシは、場所によっては毎日何度も開閉されるため、丈夫であることが必須であると考えています。そこで、当社はより堅牢であるアルミ樹脂複合サッシにこだわっているのです。

今回の住宅用新型サッシ「アルジオ」においても、アルミと樹脂の複合という基本構造は変わっていません。アルミの強さと、樹脂の熱伝導率の低さという2つの異なる材料の長所を生かし、高い断熱性能を確保しつつ、耐風圧性能をS-3からS-4に、また水密性能はW-4からW-5に、それぞれ従来の性能をワンランクアップさせることを目標としました。すなわち、「耐久性(アルミ)と断熱性(樹脂)の高度な複合」を目指したのです。

しかし、S-4やW-5といった性能は住宅用サッシでは今まで挑戦したことがない高いレベルです。採用する複層ガラスの性能もランクアップしたため、従来品の延長上で設計するのではなく、アルミと樹脂の兼ね合いなど、一から設計を行っています。設計段階から非常に頭を悩ませ、また、試作や性能試験も何度も繰り返し、困難な課題を一つひとつ解決していきました。

また、耐久性、断熱性といった基本的な性能の向上に加えて、使いやすさへの配慮も随所に行っています。例えば、引違い窓のフラット下枠は、従来品ではバリアフリーの目的で掃き出し窓にしか使用されていませんでしたが、「アルジオ」には腰窓にも採用しており、お掃除のしやすさをPRポイントとしました。フラット下枠は選択部材としていますが、半数の方がフラット下枠を選択しておられます。また、引違い窓や上げ下げ窓の「どこでも引手」は、フレーム自体を引手とすることで、どこを持って開閉操作ができるようにしました。「アルジオ」は、すっきりとしたフラットデザインや子供が安全に使える機能で、グッドデザイン賞やキッズデザイン賞を受賞しています。



三協アルミ社 商品企画部 商品開発一課
新口 貴之

CSR※活動の推進

三協立山グループは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、CSRの推進により、社会からの信頼確保に努めています。

※CSR: Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)

CSR活動実績

CSRにかかわる活動は、関連部署で各々推進しています。当社では、四半期ごとにモニタリングを行い、目標に向かって着実に実施されていることを確認しています。

2015年度の主な活動項目は、下表の通りです。2016年度も関連部署でCSR活動に取り組み、レベルアップを図っていきます。

CSR憲章	要素	活動項目	目標・方針など	実施事項	評価	該当ページ
健全な企業活動	1. CS (Customer Satisfaction: 顧客満足)	顧客満足向上活動の推進	CS意識向上と行動の徹底	CS単位活動に279チームがエントリーして活動を推進 優秀事例を表彰して社内公開し、水平展開を図る		P18
	2. 顧客要望に応える商品の提供	使いやすさを追求した商品の提供	UD設計検討書、ユーザーチェックリストでの評価実施 (UD:ユニバーサルデザイン)	UD設計検討書、UDユーザー評価会で18テーマについて評価を実施		P23
	3. コーポレートガバナンス	内部統制の有効性・効率性の向上	内部統制・リスクマネジメントおよび内部監査活動の一元的管理	内部統制委員会においてリスク再評価や内部監査報告等を実施		P10
	4. リスクマネジメント	リスク管理の推進	実効性ある管理サイクル実施の推進	企業集団内部統制・リスク管理の強化に向けた対応に着手		P10
	5. コンプライアンス	CSR・コンプライアンスの再徹底	CSR・コンプライアンスの理解度の向上	営業管理者研修会、新任支店長・工場長研修会を実施 従業員向けコンプライアンス情報誌を隔月発行 内部通報制度の標語募集		P11
	6. 情報セキュリティ	お客様情報の管理の徹底	お客様情報漏洩事故発生件数ゼロ	子会社において情報漏えい1件		P12
社会との調和	1. コミュニケーション	ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	四半期決算に則した投資家対応の強化	機関投資家への個別訪問や電話取材対応を実施 四半期ごとの決算短信をホームページに掲載		P20
	2. 社会貢献	社会貢献活動を重んずる企業風土の醸成	助成の推進	地元野球球団へ協賛金拠出 とやまマラソン2015協賛 とやま世界子ども舞台芸術祭協賛		P15 ~P16
環境との調和	1. 環境保全	環境保全活動の推進	CO ₂ 排出量を2014年度比2015年度生産量原単位全体で1%削減	2015年度CO ₂ 排出量原単位は、2014年度比0.3%削減		P33
	2. 環境商品・技術	環境配慮商品の開発推進	断熱性能向上商品、換気・通風に配慮した商品開発の推進	断熱2商品、自然エネルギー利用2商品を開発		P7 ~P8、 P23
		省エネ・代替エネルギー対応商品の開発	LEDを光源として使用したサインの商品化展開	LEDを光源とした外照式サイン用照明において アップラー型とバナー機能追加商品を発売		P27
人間尊重	1. 組織・人づくり	ダイバーシティの推進	障がい者雇用率2.0%以上	障がい者雇用率 1.98%		P21
	2. 安全衛生	心身の健康度の向上	定期健康診断有所見者の再受診率100%	定期健康診断再受診率 89.8%		P22

目標・方針など達成 目標・方針など未達成

コンプライアンスの推進

コンプライアンスは、三協立山グループにとって経営の重要事項の一つであると捉え、推進専任部署を2004年7月に設置しました。当社のコンプライアンス推進担当役員を委員長とする「三協立山コンプライアンス委員会」を設け、コンプライアンス推進基本方針に基づき、活動を進めています。

【コンプライアンス推進 基本方針】

- ① 全役職員が当社グループの社会的な使命と責任を認識し、法令・企業倫理・社内規程を誠実に遵守します。
- ② コンプライアンスに最大の価値を置き、利益とコンプライアンスが相反する場合には、コンプライアンスを優先させます。
- ③ 外部から不正・不当な要求がなされても、断固として拒否します。
- ④ グループ内でコンプライアンスに関する問題が生じた場合には、直ちにこれを是正します。

今年度活動報告

各種研修・教育活動の実施

全国の支店・営業所・販社の営業管理者に対し、コンプライアンス研修を実施しました。不祥事の防止と健全な職場をつくるために、本研修を通じて、営業管理者としての役割・姿勢を見直す機会としました。

また、新入社員研修および新任支店長・工場長研修を実施し、社会人として求められる行動やコンプライアンスの本質などについて考え、習得する機会を設けています。

コンプライアンス意識の啓発

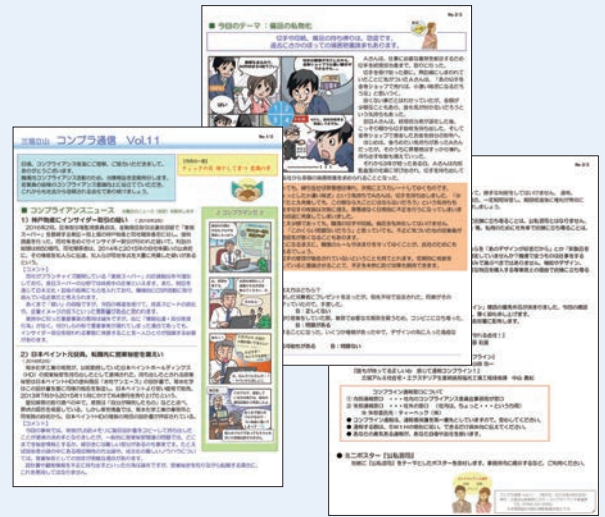
職場内コンプライアンス活動推進のため、従業員向けコンプライアンス情報誌を隔月発行しています。コンプライアンスリーダーが、この情報誌の内容を職場の従業員に周知することで、職場内のコンプライアンス意識向上につなげています。

また、コンプライアンスセルフチェックを全従業員を対象に実施し、自分の行動を振り返る機会を提供しています。

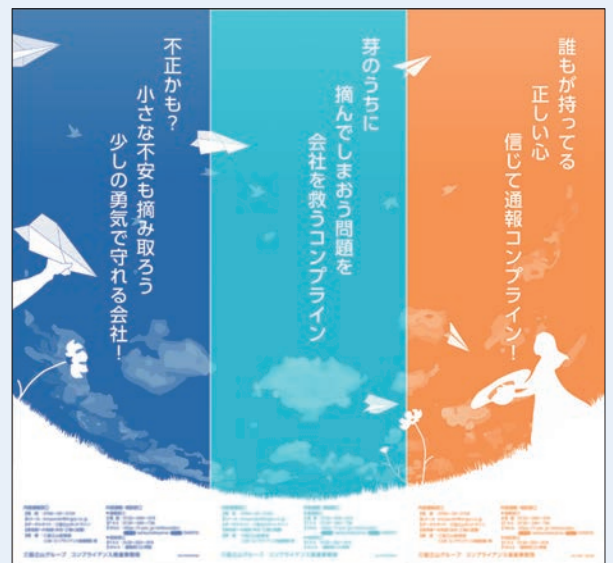
内部通報制度の理解促進

当グループでは、内部通報制度(通称:コンプライン)を設けています。コンプラインを正しく理解し活用してもらうため、コンプラインを題材とした標語を募集しました。1,229件の応募の中から選ばれた優秀賞受賞者を表彰するとともに、優秀作品をポスター化し全職場に貼り出しています。

また、内部通報制度の理解状況調査を毎年実施し、調査結果は啓発活動に反映させています。



コンプライアンス情報誌



コンプライアンスポスター

情報セキュリティの確保

三協立山グループでは、情報セキュリティの確保に関して、お客様の個人情報や取引情報の保護を最優先に取り組んでおり、従業員一人ひとりが情報セキュリティに対する適切な知識と行動を身に付けるよう実践しています。

情報セキュリティマネジメント体制

当グループでは、情報システム担当役員を委員長とする「情報セキュリティ委員会」を設け、グループ全体の活動状況・課題を把握するとともに対応方針を決定しています。また、同委員会での決定事項は、実行・推進部門である「情報セキュリティ主管部門」のもと、各部門に配置された約300名の「情報セキュリティ責任者」および「情報セキュリティ推進者」によって、全従業員に周知徹底を図っています。

情報セキュリティ確保への主な施策

1. 教育・啓発

子会社を含めたグループ全体のガバナンス強化のため、情報セキュリティ基本方針を制定し、規程や細則の整備を行いました。

また、それに合わせて従業員が守るべき事項をまとめた情報セキュリティガイドブックを刷新しました。

2. 情報漏洩対策

社外に持ち出しするモバイルパソコンには、暗号化ソフトをインストールし、万が一盗難にあっても第三者に保存されているデータを盗み見されないよう対策をとっています。

また、近年大容量化が進みセキュリティリスクが高まっているUSBメモリについては、原則利用を禁止としています。

3. アクセス権の適切な管理

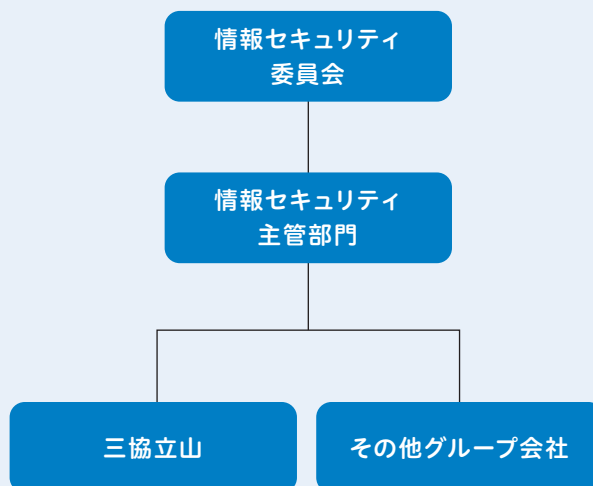
社内からの情報流出リスクを低減するために、サーバ資源へアクセスする時に入力するユーザーIDや、アプリケーションを利用するために使うIDに関して、定期的な再検証（利用者と権限の確認）を行っています。

4. 物理アクセス対策

ホストコンピュータが設置されているマシン室を「アクセス管理エリア」に指定し、部外者や不審人物などを入室させないよう、指紋認証電気錠による入出管理設備や監視カメラを設置しています。

また、情報センタービルには赤外線センサー監視装置を設置することで、執務者不在時のセキュリティを強化しています。

情報セキュリティマネジメント体制(2016年6月1日)



VOICE

セキュリティ対策について

私たちは、昨今のさまざまなセキュリティリスクに対応できるようセキュリティ規程の見直しを行いました。守るべき事項が網羅的に整備されていない場合、各個人の判断に任せられた対策や局所的で場当たりの対策が行われる恐れがあり、全体的なセキュリティレベルの維持・向上を図ることができません。

外部からのセキュリティ攻撃は、日々巧妙化が進んでいますし、内部からの情報漏洩も防止しなくてはなりません。継続的に従業員へ教育を行うことで、グループ全体のセキュリティを強化していきます。



情報システム統括室
システム企画部企画管理課
上坂 亘

地域社会とともに(1)

三協立山グループは、地域社会の一員として、社会貢献活動やコミュニケーション活動など、地域との共生に向けた活動に積極的に取り組んでいます。

地域社会の一員として

G7 富山環境大臣会合

2016年5月、日本でG7主要国首脳会議(伊勢志摩サミット)が開催されるのに先立ち、富山県富山市でG7環境大臣会合が開催されました。G7環境大臣会合では、G7とEUの環境担当閣僚が一堂に会し、地球環境問題について自由闊達に意見交換を行い、コンセンサスを形成しました。

環境省へ人員を派遣

G7 富山環境大臣会合の開催に向けて、環境省が設置する同会合準備室へ富山県・市の職員および、県内企業3社から人員が派遣されました。

当社からも人員を1名派遣し、G7 富山環境大臣会合開催に協力しました。

「富山環境展」開催

G7 富山環境大臣会合の関連イベントとして開催された「富山環境展」は、日本および富山県(企業含む)の環境への取り組みをPRするための展示会です。当社は、環境への取り組みをパネル展示し、森づくり活動や社会貢献活動などをPRしました。

一般のお客様への工場見学受け入れ

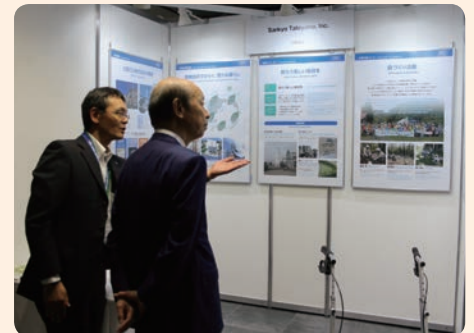
2014年4月から産業観光振興を目的に、一般の工場見学者の受け入れを開始し、2016年4月をもって3年目を迎えました。2015年3月開業の北陸新幹線効果もあり、2年目では見学者数が前年の約2倍になるなど盛況でした。7割は県外からの方に見学をしていただき、今年度も好調が見込まれます。今後も地域の産業観光振興に貢献していきます。



石井富山県知事と派遣者ら



富山環境展



当社ブースのパネル展示



工場見学の様子

地域社会とともに(2)

地域社会の一員として

保育園で環境教室を開催

2015年10月、高岡市の万葉なかよし保育園において、園児40名に「環境教室」を開きました。

マスコットキャラクター・高岡市の利長さんと当社のハピちゃんも参加して、一緒に省エネについての〇×クイズを考えたり、ごみの分別ゲームをすることで、園児たちは環境や省エネに楽しみながら関心を持つことができました。

当社は今後も高岡市と共同で、「環境教室」を保育園などで開催していきます。

なつやすみ親子工作教室

2015年8月、高岡ショールームにおいて、近隣の3小学校児童を招き「なつやすみ親子工作教室」を開催しました。これは「女性推進ワーキンググループ」が、家族でショールームに足を運んでもらおうと企画したものです。

当日は約100組の親子が参加し、木の実や小枝、貝殻など自然の材料を使って工作を行い、アイデアたっぷりの作品ができました。

地元の方々や子供たちと交流を深めることができた一日になりました。



省エネ〇×クイズ



ごみの分別ゲーム



自然の材料を使って工作

コラム

未来のとびらコンテスト開催

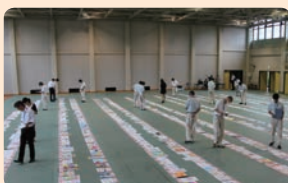
2014年より「ドラえもん」を宣伝・販促キャラクターに起用しています。

子供も大人も入ってみたいくなる「どこでもドア」。「未来のとびらコンテスト」はそんな想いから始まりました。

2015年は、小学生版に加え大学生版として、「未来の私達の暮らしが豊かになる、そんなライフスタイルやコミュニティに貢献できる作品」を募集しました。

小学生版

- ◎ 募集対象：小学生
- ◎ テーマ：子供たちが思い描く“未来のとびら”
(未来のドア、窓、門など)
- ◎ 応募総数：1,982点
- ◎ 2015年受賞作品はこちら
http://alumi.st-grp.co.jp/doraemon/2015contest/2015_result.html



選考状況(左)と表彰式(右)

大学生版

- ◎ 募集対象：専門学校・短大・大学・大学院において、
建築・デザインなどを学ぶ学生
- ◎ テーマ：「ずっといたくなる家」「ずっといたくなる図書館」
- ◎ 応募総数：152点
- ◎ 2015年受賞作品はこちら
<http://alumi.st-grp.co.jp/kenchiku/2015result/>



選考状況(左)と表彰式(右)

地域社会とともに(3)

地域社会の一員として

「富山マラソン」ランナーへ給水サポート

富山マラソン2015は北陸新幹線の開業を機に県民参加型のフルマラソンの大会として2015年11月1日に開催されました。コースは、高岡市役所前をスタートし、新湊大橋などを通り、立山の大パノラマなど富山県の自然を楽しみながら、富山市の富岩運河環水公園のゴールを目指すものです。

当社からはボランティアスタッフとして39名の従業員が参加しました。スタートから5km地点の給水所で、12,000人を超えるランナーたちに給水のサポートを行い、一緒に大きな声援も送りました。



声援を送りながら給水をサポート

「全社一斉清掃活動」の実施

社会貢献活動の一環として毎年5月30日「ごみゼロの日」にあわせて、全社一斉清掃活動を実施しています。事務所や工場周辺の道路などを清掃する活動で、今回は、全国で2,000人を超える従業員がボランティア参加し、昨年以上に環境意識の高さが感じられました。今後も、一人ひとりがごみを出さない、捨てない、または分別での資源の有効利用など、環境保全意識の醸成を図っていきます。



全社一斉清掃活動の様子

「森・川・海」リレー清掃キャンペーン

2015年10月、富山県射水市の六渡寺(ろくどうじ)海岸において、海岸清掃を行いました。清掃後は集まったごみの多さに驚くとともに、きれいになった海岸の大切さを感じました。富山県が展開する上流域から海岸に向けての清掃活動を、リレーでつなぎ、バトン代わりの横断幕には寄せ書きメッセージを残しました。

横断幕の寄せ書きに書いた当社のメッセージ

「ごみのない青い海 人も魚もうれしいな」



きれいになった海岸をバックに記念撮影

県民一斉防災訓練～シェイクアウトとやま～

9月1日防災の日、富山県内の当社全事業所およびグループ会社にて、シェイクアウト訓練に参加しました。地震を想定し、参加者が一斉に身を守る安全行動を実施するという新しい形の訓練を体験して、防災意識を高めました。



訓練風景

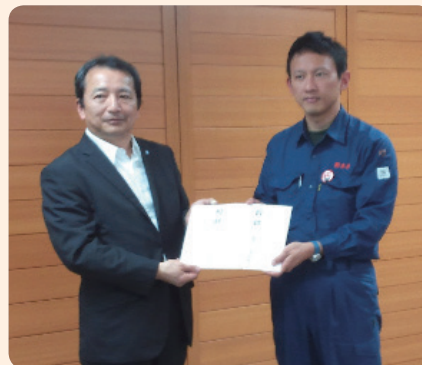
地域社会とともに(4)

社会貢献活動

熊本地震義援金を寄付

2016年4月、熊本県を襲った地震は深刻な被害をもたらしました。被災者救済のため、三協立山グループおよび関連会社従業員からの募金と拠出金を合わせた1,000万円の義援金を贈呈しました。

5月に熊本県庁を訪問し、目録を手渡しました。



目録贈呈
(右)熊本県小野副知事

野球BCリーグ戦「震災遺児育英支援冠試合」開催

2016年7月、当グループがオフィシャルスポンサーとして応援している富山GRNサンダーバーズのBCリーグ戦を「震災遺児育英支援冠試合」として開催しました。当日は1,216人が来場し、選手に声援を送りました。これにあわせ、当グループより来場者数×100円を「あしなが育英会」へ寄贈しました。



声援を送る観客席



山下社長の始球式

献血の実施

当グループは、毎年富山県赤十字血液センターの献血活動に協力しています(年3回4、8、12月に実施)。さまざまな社会貢献活動の中でも、献血は身近で人の生命に関わる大切な問題であると認識しており、従業員に対して自主的かつ積極的な参加を呼びかけています。

2015年度献血実績

	2015年8月	2015年12月	2016年4月
受付者数	250名	230名	245名
献血者数	241名	219名	231名
200ml献血者数	1名	0名	0名
400ml献血者数	240名	219名	231名

STEP-G^{※1} トレーニングウェアを難民へ寄付

2016年3月、STEP-Gのドイツ・ボン工場は、工場隣の建屋に入居している難民^{※2}に対し、トレーニングウェア(約100着)を寄付しました。

これは、スポーツを通じてドイツの文化を知ってもらおうと企画したもので、寄付当日は工場関係者やボン市役所担当者が参加し、新聞記者による取材も行われました。

※1: ST Extruded Products / Group(当社のグループ会社)

※2: 2015年、ドイツは中東などから100万人以上の難民を受け入れている。STEP-Gのドイツ国内にあるボン工場に隣接する施設においても、ボン市からの要請を受け難民(約260名)を受け入れており、管理・運営は同市が行っている。



寄付したトレーニングウェア(手前2人の服)

お客様とともに(1)

製品安全と品質向上に関する基本方針

三協立山グループは、「お得意先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します」を経営理念として掲げ、商品・サービスをはじめとする様々な企業活動を通じて、人々が暮らす快適な空間と満足される生活づくりに貢献していくことが使命であると考えています。

当グループでは、これまで開発・製造・販売する製品の安全・安心への取り組みを進めてきました。より一層、お客様に安心してお使いいただく製品をご提供するために、自主行動基準として「製品安全宣言」「品質向上宣言」「製品安全と品質向上に関する行動基準」を定め、グループ各社のすべての活動において製品の安全性確保を最優先に、企業活動を行ってまいります。

製品安全宣言

私たちは、お客様に安心してお使いいただける安全な製品を提供するため、製品の安全性確保を徹底して追求します。

品質向上宣言

私たちは、さらに上の品質を追求し、お客様に「選ばれ」「喜ばれ」「必要とされる」企業を目指します。

製品安全と品質向上に関する行動基準

1. 法令遵守

- 製品の安全性確保及びお客様の安全確保に関する法令や安全に関わる基準、品質に関する規制要求事項を遵守します。
- 従業員に対して、関係法規、社内規程、その他必要事項に関する教育を実施し、周知徹底を図ります。
- 法令や安全に関わる基準、品質に関し定期的に監査し維持管理します。

2. 製品安全性の確保

- 製品安全を確保する体制の整備と継続的な改善活動により「お客様」と「製品安全の確保」を優先する企業風土を醸成します。
- リスクアセスメントを通じてお客様目線の安全設計の実施に取り組むとともに、適切な品質管理を実施します。
- 製品を安全に正しくご使用いただくため、取扱い説明書、製品本体等に誤使用や不注意による事故防止に役立つ注意喚起や警告表示及びお手入れ方法等の情報を正確で分かり易く表示します。
- 流通段階で製品の組立、施工を行う関係事業者に必要な情報を提供し、安全性確保の啓発・指導を行います。

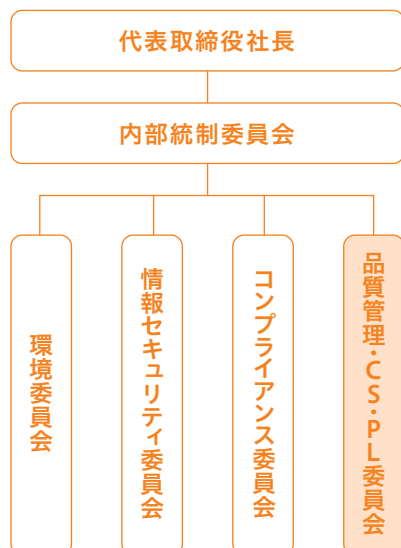
3. 品質向上

- 製品の企画・開発・設計から生産・出荷・組立・施工まで各段階におけるリスク分析とその低減に努めます。
- 製品品質とその管理状況を定期的に確認し、品質管理体制の改善活動を継続します。

4. 事故発生時の対応

- 製品事故が発生した場合、速やかに情報を収集して処理対応を行うとともに、法令に基づき所轄官庁へ報告します。
- 事故原因を速やかに究明し、安全上の問題があると判明したときは、適切な方法でお客様に告知します。
- 危害の発生、拡大を防止するため、製品回収、修理等必要な措置の実施と、再発防止を徹底します。

●品質管理体制(組織図)



●活動内容

- 品質管理委員会の活動
- 三協立山グループ品質連絡会の活動
- 商品開発時のリスクアセスメントの導入によるリスク検証
- 生産時の4M^{*1}変化点管理の導入とPDCAサイクル^{*2}の活用

*1 4M: ●人(Man) ●機械(Machine) ●材料(Material) ●方法(Method)
工程内で大量の不具合が発生した場合、このいずれかが変化している事が多い

*2 PDCAサイクル:
「計画をたて(Plan)、実行し(Do)、その評価(Check)にもとづいて改善(Action)を行う、という工程を継続的に繰り返す」仕組み

品質管理委員会	製品安全と品質向上推進
CS委員会	顧客満足向上推進
PL委員会	製品に関わる事故処理と再発防止

※ CS(Customer Satisfaction)
= 顧客満足
※ PL(Product Liability)
= 製造物責任

お客様とともに(2)

三協立山グループは、お客様への喜びと満足の提供こそが、豊かな暮らしの実現に貢献できるものと認識し、従業員一人ひとりが「CSポリシー」の実践を心がけ、日々の業務に取り組んでいます。

お客様にご満足いただくために

当社は、信用と信頼を大切にしています。信用と信頼は、日頃の企業活動において消費者様やお得意様を含めた全てのお客様の期待に応えることで、少しずつ醸成されていくものと認識しています。そして、企業活動の一つひとつがお客様満足につながることを念頭において、従業員一人ひとりが日々の業務に取り組んでいます。

顧客満足に関する活動方針は、「CS委員会」を通じて、品質向上に関する活動方針は「品質管理委員会」を通じて決定されて取り組んでいます。当社のカンパニー部門の三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社と、グループ内のST物流サービスとの間では定例の連絡会を設け、品質の向上に関する活動の連携を図っています。また、消費者様に安心してご使用いただけるよう、製品の安全に関わるPL(製造物責任)対応として、「PL委員会」を設置し、前出の2つの委員会と連携をとりながら、信用と信頼の維持向上に努めています。

※体制図は、P.17「品質管理体制(組織図)」参照

CSポリシー

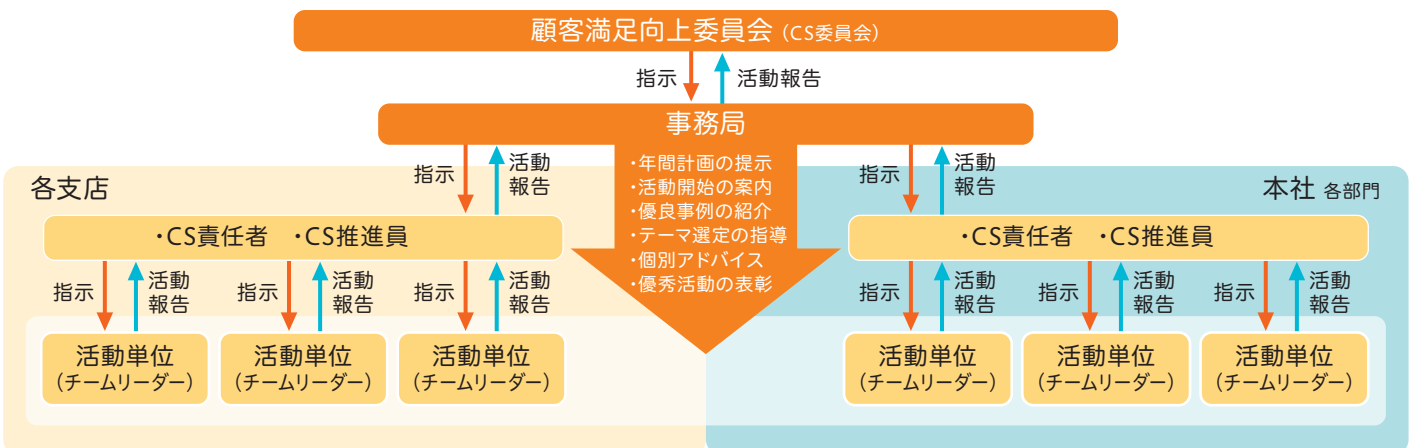
CSポリシーは、経営理念、行動指針とともに携帯用カードとして当グループ内に勤務する役員・社員・派遣社員など全員に配布され、個々人の指針としています。

- お客様満足を第一とし、“常にお客様の立場・視点で考え行動”しよう。
- お客様の意見に耳を傾け、“期待や問題点をしっかりと把握”しよう。
- お客様の満足実現に向け、“創意・工夫で改善、提案”しよう。
- お客様の“満足こそが仕事の成果”であると心がけよう。
- お客様の満足を、“共にわかち合えることに感謝”しよう。

私たちは常にこの指針に従い、
日常の企業活動の中でお客様満足の
向上に努めています。

CS活動状況

当社では、「CSポリシー」の実践を目的に「CS単位活動」を行っています。この活動は、日々の業務をお客様の立場・視点で考え行動し、CSを実践していく活動です。2002年より開始し、2015年度は279単位(チーム)が参加しました。この取り組みを通じて、日頃の業務の中に「CSポリシー」をより一層根付かせるとともに、グループ内へのベストプラクティス(優秀事例)の水平展開を図ることで、「お客様満足」を目指します。



お客様とともに(3)

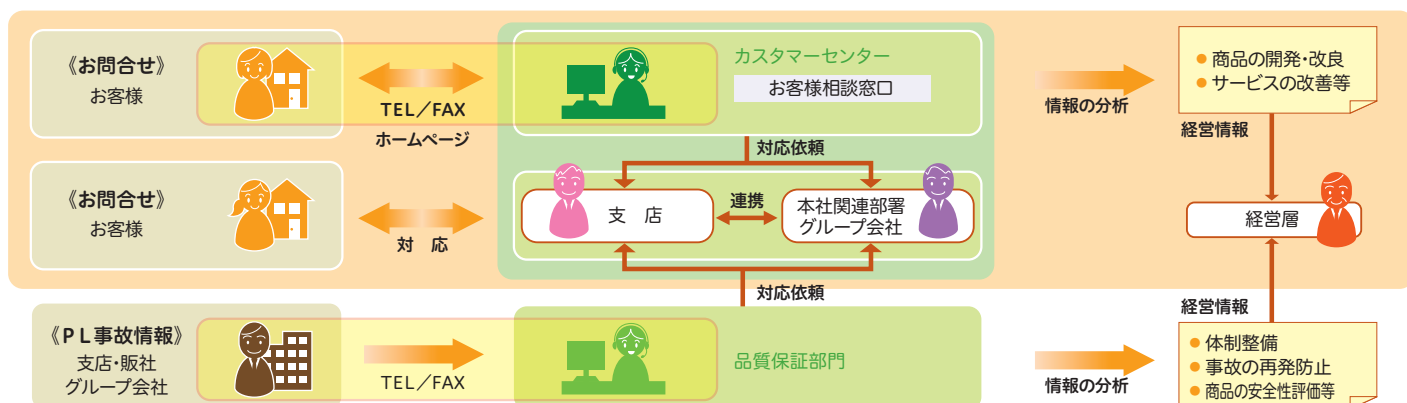
お客様の声(VOC※)を生かすために

三協立山は、消費者様やお得意様を含めたお客様からの相談窓口としてカスタマーセンターを設置し、電話、FAX、ホームページなどによりお問合せをいただけるようにしています。相談窓口では、会社を代表する窓口として信用と信頼を担っているという自覚をもち、適切な対応を心がけ、丁寧で迅速な対応に努めています。

また、「お客様満足第一」で一つひとつのお問合せを真摯に受け止め、日々お客様から寄せられる「お客様の声(VOC)」を系統立てて整理・分類し、さまざまな角度から分析を行い、課題を抽出しています。これらの課題を経営情報として経営トップや関係部署へフィードバックを行い、商品の開発・改良およびサービスの改善などに役立てています。「消費者満足」「顧客満足」のさらなる向上を目指し、ホームページやカタログなどの情報提供ツールをよりわかりやすく、ニーズに応えられる情報となるよう改善に努め、顧客接点の強化に取り組んでいます。

※VOC(Voice of Customer) = お客様の声

●お客様情報の処理フロー



安心してご使用していただくために

当社は、製品の安全性確保とおお客様の安全確保に関する法令や品質に関する基準を遵守しています。

開発段階では、リスクレベルの「見える化」による安全性の評価(R-Map※を用いたリスク評価)を行い、使う人の立場に立って、より使いやすい、安全な商品づくりに取り組んでいます。また、取扱説明書や注意ラベルに限らず、カタログの記載内容については、景品表示法、消費者基本法などの各種法規に準拠しているかどうか、さらに、所属工業会のガイドラインに沿っているかどうかについて事前にチェックして、お客様に必要な情報を明確でわかりやすく表示するよう取り組んでいます。

当社製品に関わる事故が発生した場合、すみやかに必要な関連情報を収集して、お客様の視点に立った迅速で適切な事故処理を行うとともに、重大な製品事故については、消費生活用製品安全法などの法令に基づいて、所轄官庁へ報告を行います。

また、事故の原因究明と再発防止を徹底し、製品の安全確保に努めていきます。

※R-Map: 危害の程度と発生頻度から、リスクの大きさを評価する手法の一つ。

コラム

三協アルミ首都圏ショールーム「ハロウィン祭」開催

2015年10月、首都圏ショールームでは、「秋のショールームフェア」スペシャルイベントとして、「ハロウィン祭」を開催しました。

ハロウィン風にディスプレイした館内では、スタッフもハロウィンの衣装でお客様をお出迎え。カボチャ探し&クイズラリーで「富山の名産品」などが当たる大抽選会をはじめ、「仮装で写真撮影会」や「キラキラリフレクタ」でキーホルダー作りなどの様々な催しで、ご来場いただいたご家族やお子様楽しんでいただきました。



三協アルミのショールームは、こちらから <http://alumi.st-grp.co.jp/shr/>

株主の皆様とともに

三協立山は、グループ全体の経営基盤の強化と収益力向上によって、継続的な企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。

IR※活動

IR活動は、広報・IR部が担当しており、株主、投資家をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様へ、当グループの企業活動に対する理解を促進し、適正に評価していただくために、企業情報を適時・適切に開示しています。

当社ホームページには、決算短信、決算補足説明資料、有価証券報告書(四半期報告書)などの決算開示資料に加え、半期ごとに株主通信などを掲載し、投資家の皆様がいいつでも容易に閲覧できるようにしています。

機関投資家・アナリストに対しては、期末決算後に決算説明会、半期ごとにスモールミーティング、四半期ごとに個別ミーティングを開催しており、2015年度は国内で120回実施しました。

投資家およびアナリストの皆様からいただいたご意見や助言などは、適宜、経営幹部にフィードバックし、今後の経営に活かすように努めています。

※IR(Investor Relations、インベスター・リレーションズ):
企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供する活動全般



投資家向け説明会

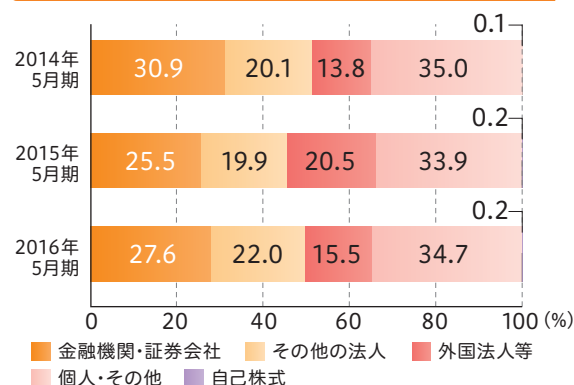
株主構成 (2016年5月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	31,554,629株
株主数	21,689名

所有者別株式分布状況 (2016年5月期末)

区分	株式数	比率
政府・地方公共団体	0	0.0
金融機関	8,426,668	26.7
証券会社	286,683	0.9
その他の法人	6,930,443	22.0
外国法人等	4,898,793	15.5
個人・その他	10,957,166	34.7
自己株式	54,876	0.2
合計	31,554,629	100.0

株主構成の推移



情報開示の考え方

当社は、金融商品取引法などの諸法令ならびに東京証券取引所の定める有価証券上場規程(以下「上場規程」という)に準拠した情報開示に努めるほか、当社をより理解していただくために有効と思われる情報についても、迅速に開示します。

なお、上場規程に該当する情報は、同規程に従い、東京証券取引所の提供するTDnet(適時開示情報伝達システム)を通じて開示します。上場規程などに該当しない情報についても、投資判断に影響を及ぼすと思われる場合は、その重要度および緊急性に応じて、適宜、適切な方法ですみやかに開示します。

コラム

「JPX日経インデックス400」に追加

2015年8月7日、日本取引所グループにおいて「JPX日経インデックス400構成銘柄入替一覧」が発表され、8月31日付の入れ替えで当社が追加されました。

※「JPX日経インデックス400」とは
日本取引所グループとその傘下の東京証券取引所、及び日本経済新聞社が共同で開発し、2014年1月6日から公表が始まった株価指数。
東京証券取引所に上場を行っている企業・3400社の中から、投資家に魅力的な高い銘柄400社を選び、それらの銘柄の動きを指数として発表している。

従業員とともに(1)

三協立山は、お客様へ喜びと満足を提供するために、新しい価値を創造できる人材の育成と、安全で健全な働きやすい職場づくりを目指しています。

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進の専任部署(多様性推進課)が中心となり、多様な人材が活躍できる風土作りに向けて、さまざまな取り組みを行っています。

女性従業員の活躍推進

女性活躍に向けて、次のリーダーを目指す中堅女性従業員を対象に、キャリアデザイン研修を行いました。また、その上司を対象に、女性従業員の自律的キャリア形成をサポートするための研修も行っています。

2015年度は管理職を対象に「男女を問わず、社員が子育てしながら働ける環境を作るイクボスの育成」をテーマとした、働き方改革セミナーを実施しました。

女性活躍推進法 一般事業主行動計画 策定*

女性社員が活躍できる雇用環境の整備を行うため、行動計画を策定しました。

●計画期間

平成28年4月1日から平成33年3月31日

●定量的目標

将来の女性管理職登用を見据え、副主事昇格者に占める女性の割合を15%以上とする。

●取組内容

1. 女性社員を対象として管理職育成を目的とした研修を実施する。
2. これまで女性社員が少なかった部署に女性を積極的に配置する。

障がい者雇用と活用

障がい者雇用については、企業の社会的責任として、法定雇用率を(2.0%)遵守すべく、今後も雇用拡大と活用を進めていきます。今年度は障がい者専用駐車場を設置し、働きやすい環境整備を行っています。

ワーク・ライフ・バランスの推進

ノー残業強化デイ職場パトロールの実施

従業員の心身の健康を保持するため、毎週水曜日と金曜日を全社員残業ゼロの日と決め、職場パトロールを実施しています。管理職者が18時～18時半に各職場を巡回し、残業者がいれば帰宅を促しています。

新入社員の採用

企業の安定的な成長・発展に向け、新入社員の採用を行っています。

本年は、『広い視野を持ち、好奇心とチャレンジ精神、行動力を備え、激動する時代にも柔軟に対応できる人材』の採用を行いました。



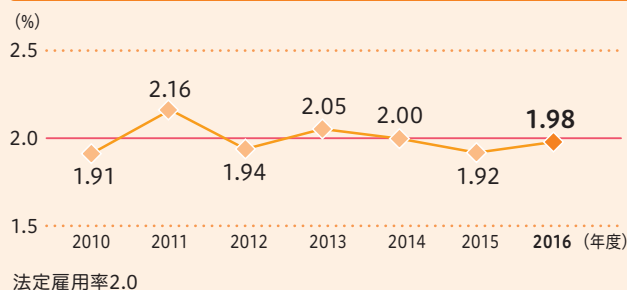
働き方改革セミナー

※女性活躍推進法 一般事業主行動計画とは

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律:

働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表を事業主に義務付けたもの。

障がい者雇用率



有休の計画取得

メモリアル休暇やフレックス休暇などの有休を年度初めに申請し、計画的に取得できるよう職場全体で取り組んでいます。



新入社員入社式

従業員とともに(2)

従業員教育

新入社員の早期戦力化を目的に、入社から3年間にわたり、段階的にフォローアップする研修を行っています。また、階層別に必要能力の組み込みを図り、各種研修を企画・実施し、事業環境を取り巻く様々な課題を的確に解決できる人材の育成に注力しています。併せて、次代のビジネスリーダーの早期創出に取り組んでいます。

自己啓発支援

通信教育講座の受講奨励や社内e-ラーニングなどの自学手段の提供、公的免許・資格取得に対する報奨金支給など、従業員の自己啓発やキャリア形成をサポートしています。

遺児育英年金制度

遺児育英年金制度は、従業員が在職中に死亡(または、高度の障がいとなり)退職した場合に、遺児(子供)に対して奨学資金を援助する制度です。この制度は、従業員が安心して働くため労働組合と共同で行っている福利厚生施策で、子供が18歳(高校卒業)になるまで援助するものです。

労働安全衛生について

基本理念

従業員の安全衛生は、企業の存立の基盤であり、安全衛生の確保は企業の社会的責任です。三協立山グループは、人間性を尊重し、「安全第一」と「健康保持増進」を安全衛生活動の基本理念として展開しています。

健康活動

職場における健康診断は、従業員の健康状況を把握するための基本となる活動であり、疾病の早期発見に重要な意義があります。健康診断結果を基に、再受診の勧奨や保健指導などのフォローを行っています。近年、メタボリックシンドロームやその予備軍の従業員が増加していますので、保健指導により改善意識の高揚に努めています。

一方では、長時間労働による健康障害の防止については、毎月、前月分の長時間労働者を把握し、時間外労働時間に応じて産業医による面接指導を実施しています。

また、メンタルヘルス不調者が増加の傾向にあり、保健スタッフに相談できる体制や、社外の24時間対応カウンセリングサービスを整備しています。さらに2016年度からストレスチェックを実施し、未然防止に努めています。

安全衛生意識の高揚を目的に、毎年グループ全社から標語を募集し、優秀作品を表彰しています。今年度は3,609件の応募がありました。

『あったか言葉とにこやか笑顔 心と体の健康職場』

2015年度安全衛生標語入選作品(健康管理部門)



新入社員研修

従業員満足度調査

従業員のモチベーションを、会社の生産性や業績の向上につなげることを目的に、毎年「従業員満足度調査」を実施しています。調査結果は、人事・労務・教育などに関する全社の施策の判断材料にするとともに、社内のポータルサイトなどで公開し、各職場の環境改善に役立てています。

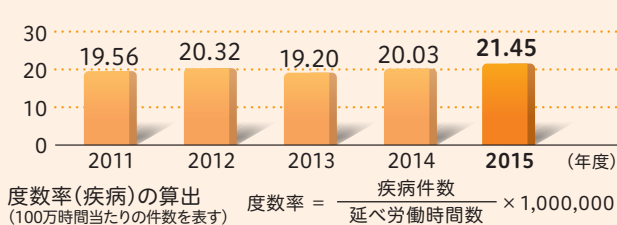
安全活動

職場の危険源低減活動として「リスクアセスメント」、「5S活動」、「ヒヤリハット運動」や「労使安全パトロール」等を展開し、危険要因の排除に取り組んでいます。また、安全に強い人づくり推進活動として「危険予知訓練」、「各種安全衛生教育」などを実施し、安全意識の向上と人材育成を図っています。不安全行動による労働災害が多いため、危険を危険として気づく感受性を鋭くする訓練と作業行動の要所で「指差し呼称」による安全確認の徹底運動を展開し、労働災害防止に努めています。

休業度数率(災害)



休業度数率(疾病)

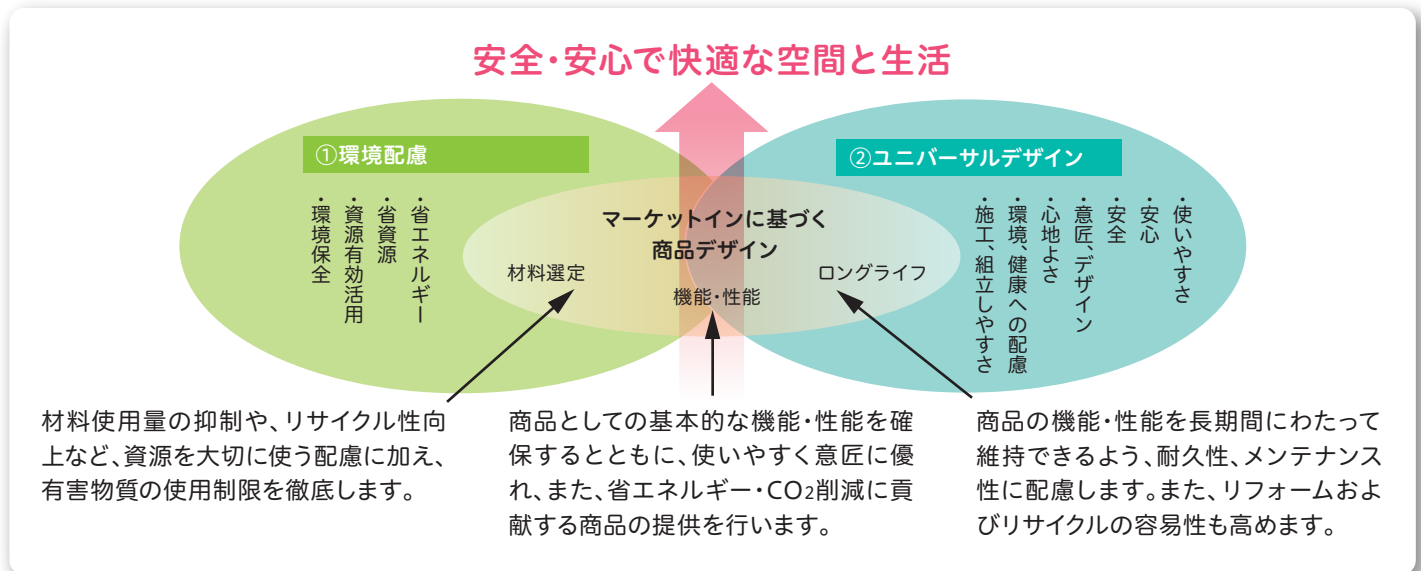


商品開発の基本姿勢

三協立山は、商品・サービスの購買者のニーズを優先し、マーケットインをベースとした全体最適システムから生活視点で商品開発を行い、お客様の期待にお応えします。

商品開発理念

安全・安心で快適な空間と生活に寄与するために、全ての新規開発商品において、①環境配慮と②ユニバーサルデザイン(以下UD)を基本に、「材料選定」、「機能・性能」、「ロングライフ」の3つの要素を使う人の立場に配慮して盛り込み、お客様へご提案しています。



環境配慮の商品づくりについて

環境配慮設計指針による商品開発

当社では、「環境配慮設計指針」を基本として商品開発を行っています。この中では、「省エネルギー」「省資源」「資源有効活用」「環境保全」の4つのコンセプトに基づき、材料選定、生産、流通、施工、使用から解体・廃棄までのライフサイクルでの環境負荷低減に努めています。

環境配慮商品

商品開発時には、環境配慮設計指針に基づいた「環境配慮設計チェックリスト」を用いて、全ての開発商品について、環境への影響を評価しています。

従来同等商品より環境への負荷が少なくなるよう目標を定め、総合点数が目標を上回った商品を『環境配慮商品』と定めています。

その結果、三協アルミの2015年度の環境配慮商品売上比率は、80%になりました。

4つのコンセプト

省エネルギー

- 断熱
- 遮熱
- 省電力
- 自然エネルギー利用

省資源

- リデュース
- 長寿命
- メンテナンス性

資源有効活用

- リユース
- リサイクル

環境保全

- 有害物質抑制
- 温室効果ガス

また、商品カタログには、環境配慮商品であることを示すマークを付けています。

環境配慮商品マーク



ユニバーサルデザインの取り組み

UDユーザー評価会

UDユーザー評価会とは、開発商品の試作確認時にユーザー視点での商品評価を行うものです。ユーザー側の声を商品開発へフィードバックすることで、書類審査や開発関係者による検討だけでは気が付かない問題点を掘り起こします。



UDユーザー評価会

環境・UDに配慮した商品開発(1)

アルミモダンインテリアシステム「AMiS(アミス)」

アルミの持つ洗練された素材感を最大限に生かし、**ミニマル**※で、飽きのこない機能的デザインを追求したインテリアシリーズ

※ミニマル:最小限、シンプル

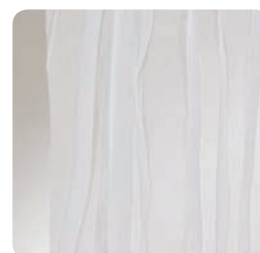
「AMiS」シリーズは、アルミの素材を生かしたドアや引戸などの室内建具や階段などをラインアップしたインテリアシリーズです。「AMiS」のこれまでのコンセプト「アルミの素材を生かしたクールモダン」に「癒し」と「優しさ」をプラスしました。



扉が静かにしめる
「ソフトクローズ
機能」(室内引戸)



手になじみやすく、
高級感のある引手



新デザイン樹脂パネル「ながれ」

特長

- 1 扉が静かにしめる「ソフトクローズ機能」を標準装備
扉を強く開閉してもはね返りがなく、ゆっくり静かに扉を閉めることが可能
- 2 操作性とデザイン性に配慮した引手(室内引戸)
手掛け幅を9mmから20mmに大型化し引手が手になじむような構造を実現
- 3 三協アルミ独自の技術で、アルミ型材に新しい表情を実現
アルミ型材の表面に凹凸をつけることで、やさしく温かみのある表情を実現
- 3 水のうつりかわりをデザインしたパネル
「せせらぎの流れ」や「雨のしずく」のさまざまな表情をデザイン

商品の詳細はこちらから

<http://alumi.st-grp.co.jp/products/interior/amis/>

VOICE

アルミの素材を生かしたデザインが好評の「AMiS」シリーズを、素材感そのままに、“やさしさ”を進化させました。

温かみのある表情を実現したアルミ型材や、水という素材が見せてくれるさまざまな表情をデザインしたパネルなど、やさしさや癒しを感じさせる工夫を盛り込みました。

また、とびらを開くときと閉じるときの両方で機能する「ダブルソフトクローズ機能」や、大きくメタリック調で高級感のある引手は、便利で使いやすいと好評です。

大きなパネルで光を通しながらやわらかく仕切り、やさしい空間を楽しむ。アミスはデザインと使いやすさで、毎日の暮らしを豊かにします。

三協アルミ社 商品開発部 商品開発三課
前多 正夫



環境・UDに配慮した商品開発(2)

フェンス S.ボーダー「UCHI-MIZU -ウチミズ-」

建築家とのコラボレーション事業”SACLAB”から誕生 環境配慮型ルーバースクリーン「UCHI-MIZU(ウチミズ)」

「UCHI-MIZU(ウチミズ)」は、廃棄物をリサイクル利用した多孔質の保水材料(発泡セラミック)を用いた環境配慮型のルーバースクリーンです。水分を保つ特殊な材質に加え、ルーバーをハの字型に組み合わせることで、ルーバー間のスリットを通り抜ける風を効率良く冷やし、外気の熱気を和らげます。



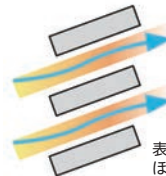
SACLAB

= Sankyo Alumi Creative LABoratory



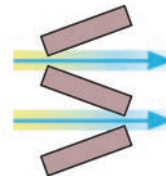
“SACLAB”(Sankyo Alumi Creative Laboratory [サクラボ])は、三協アルミ社が日本の建築界を牽引する建築家と共に新しい住空間を考え、都市・環境・建築における新しい価値やデザイン、そして人との関係性を模索し、様々なカタチで提案していくラボラトリー(研究所)です。

●通常のアルミルーバー



表裏での温度変化はほぼゼロ。

●保水ルーバー



ルーバーの保水効果で、水平に抜ける風を冷やします。

特長

①環境配慮型の素材で外気の熱気を和らげる

廃棄物をリサイクルした多孔質の保水材料(発泡セラミック)を使用
保水ルーバー材に水を浸透させることで、ルーバー周囲近くの熱気を緩和

②植栽ユニットで清涼感プラス癒し空間

植栽で、清涼感に加え、敷地境界に柔らかな印象を与え癒し空間にも

③細部にまでこだわったデザイン性

保水ルーバー材の中にアルミルーバー材をランダム調に配置することで、おしゃれな空間を演出



植栽ユニット

商品の詳細はこちらから

<http://alumi.st-grp.co.jp/products/gate/sborder/sborder/>

VOICE

「UCHI-MIZU(ウチミズ)」はSACLABによる取り組み(境界の新たな価値の提案)から生まれた環境配慮型スクリーンです。主材料は廃棄物をリサイクルした保水材料であり、これをルーバーとして使用しています。

ルーバーに水をかけると、気化熱でルーバー表面が冷やされます。ルーバーのスリットに流れる風を冷やすことで外気の熱気を和らげます。商品名の通り、日本古来の習慣の一つである打ち水をスクリーンにもしてもらおうことで、暑い日をより快適に過ごして欲しいという思いが込められています。

また、保水特性を活かし、穴の開いたルーバーで植物を育てガーデニングを楽しむこともできます。

クーラーの効いた部屋に閉じこもらず、空の下で楽しく過ごすきっかけになればと思います。



三協アルミ社 商品開発部 商品開発二課
赤井 忠剛

環境・UDに配慮した商品開発(3)

植物工場ラック「アルファーム」

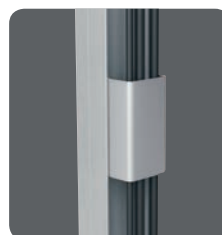
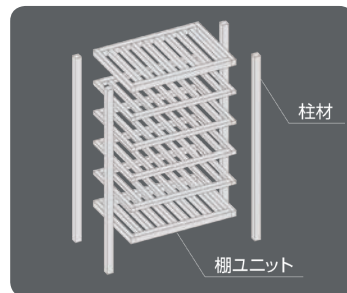
三協マテリアルの提案する新しい植物工場ラック

植物工場ラック「アルファーム」は、完全人工光型水耕栽培専用のラック棚です。

フレームや接合部材に、アルミ形材を使用していますので、錆びに強く、湿度の高い栽培環境下でも美しい外観を保ちます。ラックに積載する荷重や剛性など、お客様のご使用条件にあわせて、オーダーメイドの製作が可能です。



棚のユニット化で
施工時間を短縮



配線カバーですっきり収納



照明取り付け用部材を用意

特長

① 施工性の高いユニットラック

棚のユニット化により、設置場所での施工時間を短縮

② 軽くて丈夫なフレーム

水耕栽培専用に構造設計したラックのため、棚がたわみにくく、地震などの揺れにも強い設置安定性と高強度化を実現

③ 配線カバーの取り付けが可能

柱材にカバーを取り付けることで配線をすっきり収納し、メンテナンスも容易に

④ 装備品の取り付けが可能

照明取り付け用の部材を用意

商品の詳細はこちらから

<http://material.st-grp.co.jp/product/original/alfarm/>

VOICE

当社は、地域の農業活性化支援のため、2012年から植物工場を運用しています。アルミメーカーである当社には、以前よりアルミ製植物工場ラックの製作依頼があり、汎用的な部材で受注生産を行ってきました。

今回の「アルファーム」は、専用のアルミ形材で構成され、軽くて強く、美観に優れた商品です。植物工場ならではの細かい仕様にあわせたオーダーメイド対応も可能です。

人口減少による日本の農業のありかたが問われる中、野菜の安定供給、食の安全性といった課題を解決する方法のひとつが植物工場であると思います。植物工場運用の経験を生かして開発した「アルファーム」が、日本の安全・安心な食生活の一助になればと思います。

三協マテリアル社 営業部 商品企画課 笹田 顕珠



環境・UDに配慮した商品開発(4)

LED照明付きバナー「アドビューB(バナー)」

2種類の広告を表示できるLED照明付きバナー※

※バナー：広告、宣伝用の横断幕、垂れ幕

「アドビューB(バナー)」は、2種類の広告とLED照明を1つのユニットに収めた看板です。ロールスクリーン式で簡単に表示内容を切り替えられる広告がLED照明と一体となっているので、日中・夜間を通して店頭をすっきりとしたイメージに演出します。



BANNER
アドビューバナー

- 昼は、ロールスクリーンを下ろして、「ランチ」の広告を表示
- 夜は、ロールスクリーンを上げて、背面にある「ディナー」の広告を表示

特長

① 2種類の広告が設置可能

前面に巻き上げが可能なロールスクリーン式、後面に固定式の2種類の広告を1つのユニットに収めることができます。

② LED照明で広告面を明るく照射

光ムラの少ない均一な配光設計で、広告面を明るく照射します。

③ すっきりとしたフォルム

LED照明のユニット本体は、出幅の少ないシンプルなフォルムで壁面・天井面への取り付けが可能です。



前面の広告は、昇降式



LED照明で、広告面を照射

背面の広告は、固定式

商品の詳細はこちらから

http://www.ta-sign.jp/si_ca/banner/

VOICE

「アドビューB(バナー)」の特長である、バナー(垂れ幕状の広告)とLED照明が一体となった商品は、他社にはない当社独自のものです。

広告の交換は、店舗の従業員の方でも簡単に出来るようにし、特殊な工具を使いません。また、一度使った広告であっても再度使えるような取付方法になっており、環境に配慮した設計となっています。

LEDは出力効率の高いものを選定しました。LEDの球数が少なくても、広範囲かつ均質に照射し、消費電力を抑えます。

さらに、この商品は、照明部分の出幅が小さいことが魅力です。すっきりとしたフォルムで、店舗の外観に馴染むようなデザインになっています。

「アドビューB(バナー)」が引き立てる、おしゃれな店舗が街に増えてほしいと思います。



タヤマアドバンス社 商品企画部 商品企画課
小谷 一希

社会から評価を受けた商品

2015 年度グッドデザイン

住宅用ハイスペックサッシ「ALGEO (アルジオ)」

「アルジオ」は、断熱性の向上はもちろん、耐風圧性と水密性をワンランクアップさせることで、増加傾向にある異常気象などの厳しい条件下でも安心して使える高耐久構造を実現した、ハイスペックサッシです。

引違い窓の下枠にフラットレールタイプをラインナップし、スッキリした印象のデザインと、お手入れのやすさが実現されている点が評価されました。



GOOD
DESIGN

窓タイプにも
フラットレール採用



ハイスペックサッシ「アルジオ」

関連記事

▶▶P.7-8 特集「アルジオ」

フェンス「S. ボーダー」シリーズの「リングリング」「エアブロック」

「S. ボーダー」シリーズは、2013年より進めている「建築家と共に新しい住空間を考えるプロジェクト“SACLAB”」の第1弾の取り組みとして、“新たな敷地境界”をコンセプトに考案した新発想のフェンスです。敷地境界を、単に敷地と道路、敷地と敷地を区切るものではなく、その2つを繋ぐものと考えました。

商品を通じて家族や近隣の住人同士がコミュニケーションを育み、人と人との繋がりが生まれ、街の風景も華やかに演出することができます。

バルコニー「コーデリア」の「横格子」「ルーバー格子」

バルコニー「コーデリア」は、様々な住宅様式において、外観のアクセントとなる高意匠のアルミ製柱なし式バルコニーです。

リビングの延長として考えられたバルコニー。外からの視線を遮りながら、風を取り込み、子供の足掛けにもならないよう配慮している点が評価されました。



フェンス「S. ボーダー」シリーズの「リングリング」「エアブロック」



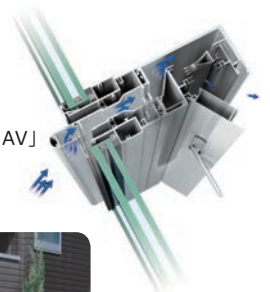
バルコニー「コーデリア」の「横格子」「ルーバー格子」

平成 27 年度中部地方発明表彰 県知事賞

「ARM-S@NAV」

「ARM-S@NAV」は、自然換気システムを備えたビル用カーテンウォールです。「風をつかむ」「風の道をつくる」「風を制御する」といった技術の組み合わせによって、自然の風を効率よく建物に採り込むことができます。

「ARM-S@NAV」



第 53 回富山県発明とくふう展 高岡市長賞

機能ポール「クルポ」

「クルポ」は、扁平な長方形のポール本体を中間部分でねじった商品です。敷地外側を向く上側取付部に照明・表札・インターホン等を取り付けし、また、来訪者の動線に対して平行になるよう、下側取付部にはポストを取り付けています。機能機器を適切な面に配置でき、デザイン性と使い勝手を両立させています。



機能ポール「クルポ」

環境基本理念

三協立山グループは、経営理念・行動指針に基づき、環境基本理念、環境方針などを展開し、環境問題については最重要課題として位置付け取り組んでいます。

環境スローガン

創ろう美しい地球を

環境基本理念

三協立山グループは、地球環境問題を最重要課題として認識し、全ての事業活動を通じ地域や地球の環境保全に取り組み、人と自然にやさしい豊かな社会づくりに貢献いたします。

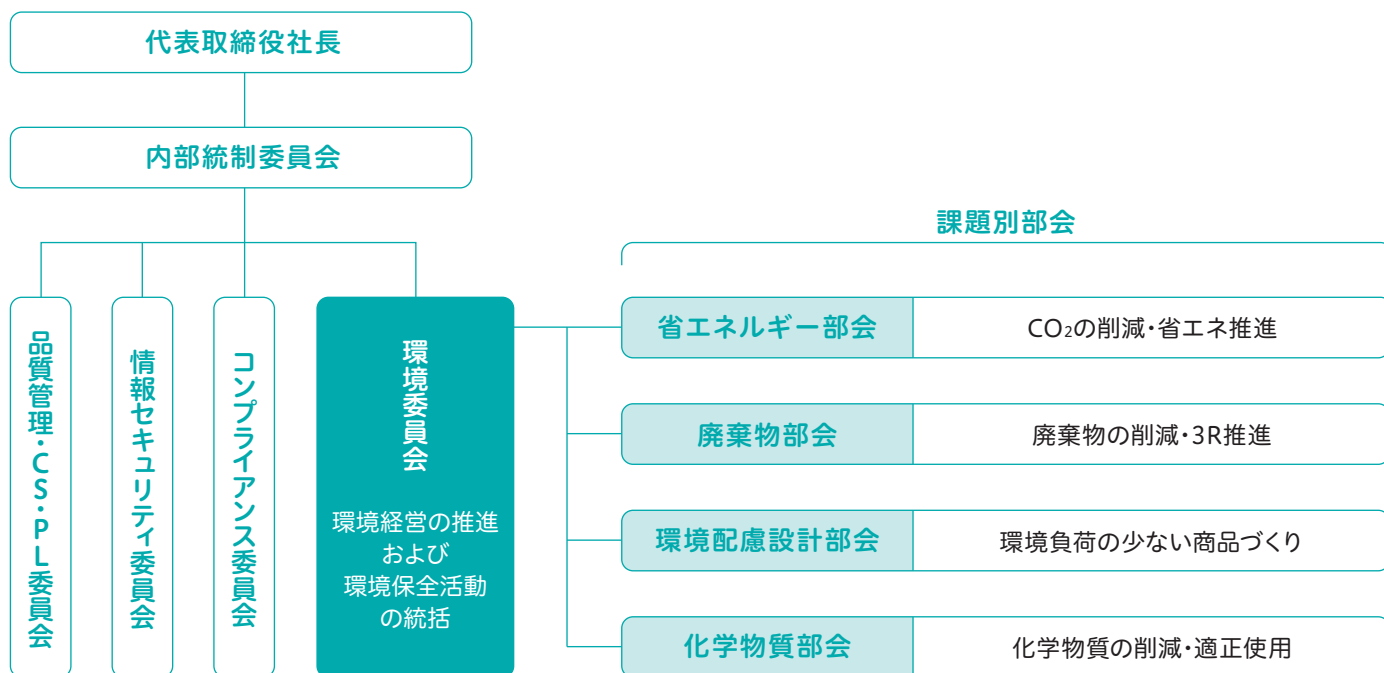
環境方針

- ① 事業活動における環境負荷低減
- ② 環境配慮商品の充実・推進
- ③ 環境経営および環境リスクへの対応
- ④ 環境コミュニケーションの促進

環境推進体制

三協立山グループの環境経営を推進し、環境保全活動を統括する組織として、「環境委員会」を設置しています。当委員会は、内部統制委員会の専門委員会の一つとして位置付けており、環境経営に関する方針・方向性の策定や環境保全に関する重要事項の審議等を行います。

また、特に重要な環境政策については、課題別部会を設けて具体的に展開しています。



環境行動目標と実績

中期および2015年度の環境行動目標と実績は、下表のとおりです。

中期および2015年度の目標と2015年度の実績

環境方針	取り組み項目	中期環境行動目標 (2015年度～2017年度)	2015年度 目標	2015年度 実績	自己評価	掲載ページ
事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	・エネルギー使用量を2014年度比2017年度生産量原単位 全体で3%削減	・1%削減	・0.1%増加		P33
		・CO ₂ 排出量を2014年度比2017年度生産量原単位 全体で3%削減	・1%削減	・0.3%削減		P33
		(長期目標) ・CO ₂ 排出量を1990年度比2020年度 総量で20%削減	・16.0%削減	・17.5%削減		P33
		・輸送段階におけるCO ₂ 排出量を2014年度比 2017年度輸送量(トンキロ)原単位 全体で3%削減	・1%削減	・1.0%増加		P34
	廃棄物対策	・工場部門の産業廃棄物 各年度のリサイクル率98%以上	・98%以上	・97.2%		P35
		・工場部門の産業廃棄物排出量を2014年度比 2017年度 3%削減	・1%削減	・2.5%削減		P35
	省梱包の推進	・梱包副資材の使用量 各年度2014年度より削減	・削減	・2.3%増加		P35
化学物質対策	・PRTR対象物質の使用量を2014年度比 2017年度 3%削減	・1%削減	・5.1%削減		P36	
環境配慮商品の充実・推進	グリーン調達	・事務用品のエコ商品購入率 2017年度までに80%以上に向上 ・グリーン調達ガイドラインの継続運用	・80%以上	・74%		—
	環境配慮商品の開発推進	・次世代省エネ基準義務化をクリアする高断熱商品の開発と環境配慮商品の強化	・次世代省エネ基準義務化をクリアする高断熱商品の開発と環境配慮商品の強化	・断熱2商品 ・自然採風2商品		P23～27
	LCAを適用した環境配慮設計の推進 (LCA:ライフサイクルアセスメント)	・顧客視点による環境配慮設計の新指標策定	・顧客視点による環境配慮設計の新指標策定	・新指標検討中		P23
環境経営および環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	・法令違反・重大環境事故の発生件数 0件	・法令違反・重大環境事故の発生件数 0件	・法令違反・重大環境事故の発生件数 0件		P38
	産業廃棄物管理の徹底	・廃棄物処理法違反の発生件数 0件	・廃棄物処理法違反の発生件数 0件	・廃棄物処理法違反の発生件数 0件		P38
環境コミュニケーションの促進	情報開示 (CSR報告書の発行)	・年1回の発行 ホームページで公開	・年1回の発行 ホームページで公開	・「CSR報告書2016」の発行 ホームページで公開		—
	生物多様性の保全	・ツインリーフの森づくり活動の推進	・ツインリーフの森づくり活動の推進	・森づくり活動実施		P39
	地域社会との共生、関係団体への参画	・関係諸団体への継続的な参画 ・環境保全活動への参画	・関係諸団体への継続的な参画 ・環境保全活動への参画	・関係諸団体への参加 ・環境保全活動への参画		P40
	環境教育	・環境家計簿およびグリーンカーテンコンテストの参加推進	・環境家計簿およびグリーンカーテンコンテストの参加推進	・環境家計簿およびグリーンカーテンコンテストの参加推進		P40

目標達成 目標未達成

主要指標一覧

[2015年度] 主要な環境パフォーマンス指標などの推移

項目	報告対象期間	2013年度	2014年度	2015年度	集計範囲	本報告の掲載ページ
総エネルギー投入量	(千GJ)	4,576	4,393	4,331	三協立山	P33
主要原料投入量	(千トン)	167	158	158	三協立山	P31
水資源投入量	(千トン)	10,504	10,399	10,213	三協立山	P31
温室効果ガス排出量	(千トン-CO ₂)	293	281	276	三協立山	P33
産業廃棄物排出量	(千トン)	30.7	27.3	26.6	三協立山	P35
産業廃棄物埋立量	(千トン)	1.2	1.1	1.1	三協立山	P35
PRTR対象物質取扱量	(トン)	532	541	514	三協立山、関連会社	P36
化学物質トルエンの排出量	(トン)	54	53	48	三協立山、関連会社	P36
化学物質キシレンの排出量	(トン)	69	67	61	三協立山、関連会社	P36
総資産	(百万円)	234,243	270,557	254,630	三協立山	P47
売上高	(百万円)	295,236	292,391	332,168	三協立山	P47

※温室効果ガス排出量:各電力会社の2010年度実排出係数にて算出

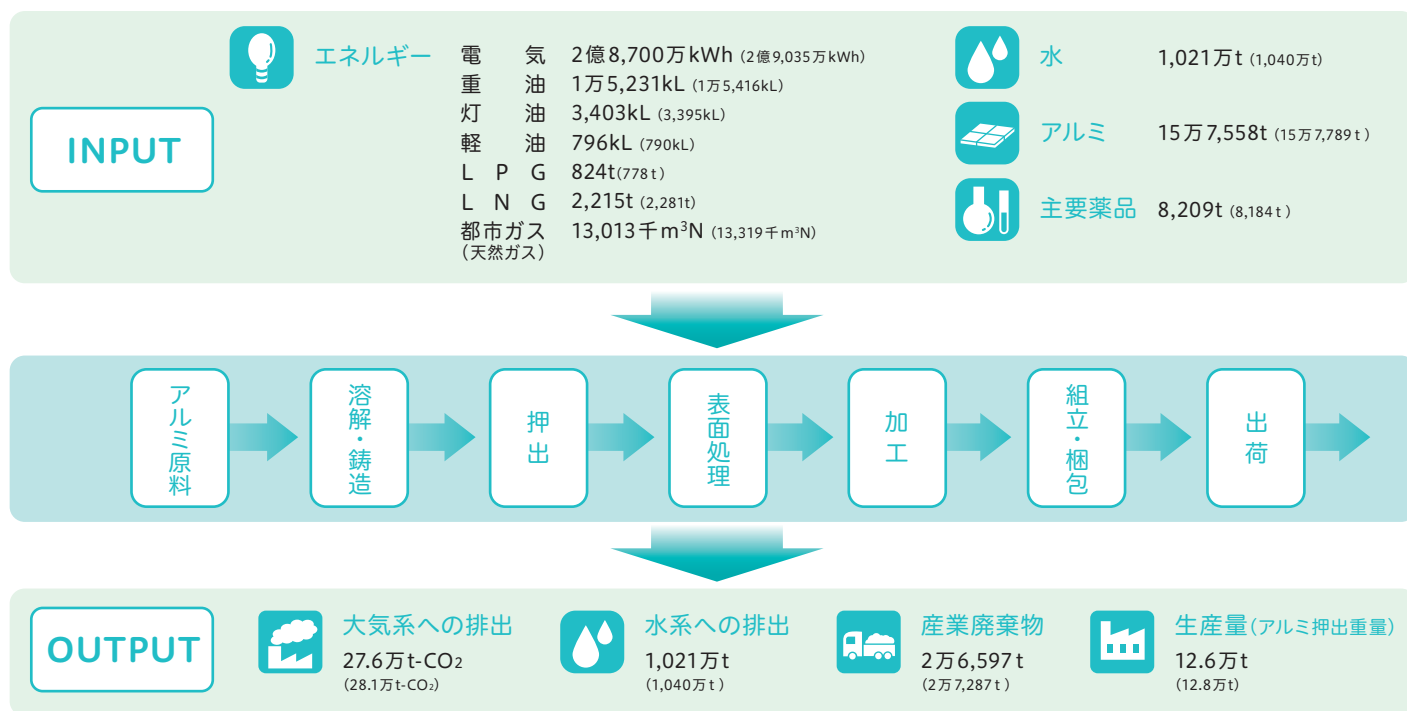
※環境報告ガイドライン2007年版準拠

※主要原料投入量、水資源投入量、PRTR対象物質取扱量、化学物質トルエンの排出量、化学物質キシレンの排出量の集計期間は4月1日～翌年3月31日

環境とのかかわり

当グループでは、主にリサイクルが容易なアルミニウムを材料とし、エネルギーや水、化学物質を使用して商品づくりを行っています。その過程として、資源の消費、廃棄物やCO₂の発生という形で、環境に負荷を与えています。

このような負荷を低減するためのさまざまな活動を通じて、地域や地球の環境保全に取り組んでいます。



※()内は2014年度実績

※集計範囲・・・三協立山(株)

環境会計

三協立山では、環境省発行の環境会計ガイドラインに基づき、環境保全に係わる費用と効果を定量的に把握して、環境投資と効果を評価しています。

2015年度環境会計結果

環境保全コスト

単位:千円

環境保全コストの分類	コスト項目の主な内容	設備投資		費用	
		2014年度	2015年度	2014年度	2015年度
1. 事業エリア内コスト	事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト	239,196	365,156	445,000	446,755
内訳	1) 公害防止コスト	3,317	90,215	144,661	155,824
	2) 地球環境保全コスト	235,578	270,104	615	760
	3) 資源循環コスト	301	4,837	299,724	290,171
2. 上・下流コスト	グリーン購入など事業エリアの上流側で発生する環境負荷抑制のために必要なコスト	0	0	0	0
3. 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用のためなどに必要なコスト	0	0	86,261	91,969
4. 研究開発コスト	環境負荷抑制に係わる製品の研究開発に必要なコスト	775,929	955,994	556,124	796,042
5. 社会活動コスト	地域住民の行う環境活動などへの寄付、支援のためのコスト	0	0	5,291	5,242
6. 環境損傷コスト	自然修復のために必要なコスト	0	0	0	0
合計		1,015,125	1,321,150	1,092,676	1,340,008

環境保全効果(CO₂換算)

効果の内容	2014年度		2015年度	
	環境負荷削減量 (t-CO ₂)	前年度比削減率 (%)	環境負荷削減量 (t-CO ₂)	前年度比削減率 (%)
二酸化炭素	12,596	4.3	5,087	1.8

環境負荷総量内訳

単位:t-CO₂

	2013年度	2014年度	2015年度
1. 電気	194,760	185,502	181,664
2. 重油	47,628	45,658	45,110
3. 軽油	2,140	2,042	2,059
4. 灯油	9,945	8,452	8,471
5. ガソリン	84	86	91
6. LPG	2,462	2,333	2,471
7. LNG	5,986	6,165	5,988
8. 都市ガス	30,446	30,618	29,915
合計	293,452	280,856	275,769

2015年度環境会計の分析

2015年度の環境保全コストとして、設備投資に13億21百万円、費用に13億40百万円を投入しました。設備投資の主なものとして環境配慮商品を開発するための設備投資に9億56百万円、費用の主なものとして、廃棄物処理などに2億90百万円投入しました。

設備投資は、2014年度に比べて、3億6百万円増加、費用は、2億47百万円増加しました。

環境保全効果(CO₂換算)の削減量は、5千t-CO₂で、削減率は1.8%でした。

環境保全対策に伴う経済効果は、2億78百万円で、2014年度比20.2%減少しました。

環境保全対策に伴う経済効果

単位:千円

効果の内容	2013年度	2014年度	2015年度
1. 省エネによるコスト削減	125,371	119,754	58,106
2. 有価物売却益	186,619	228,698	209,443
3. ダンボール、緩衝材などの削減	591	451	10,925
合計	312,581	348,903	278,474

環境会計要約情報の直近3年間の推移

	2013年度	2014年度	2015年度
1. 環境保全コスト			
投資額(千円)	856,130	1,015,125	1,321,150
費用額(千円)	975,722	1,092,676	1,340,008
2. 環境保全効果に関する環境パフォーマンス指標			
総エネルギー投入量(千GJ)	4,576	4,393	4,331
水資源投入量(万t)	1,050	1,040	1,021
CO ₂ 排出量(万t-CO ₂)	29.3	28.1	27.6
産業廃棄物排出量(万t)	3.1	2.7	2.7
総排水量(万t)	1,050	1,040	1,021
3. 環境保全対策に伴う経済効果			
実質的效果(千円)	312,581	348,903	278,474

●集計期間…2015年6月1日～2016年5月31日

●集計範囲…三協立山㈱

地球温暖化対策(省エネルギー対策)(1)

三協立山グループでは、地球環境問題を人類共通の最重要課題として認識しており、省エネ活動をはじめとする地球温暖化対策に継続的に取り組み、地道な活動を進めています。

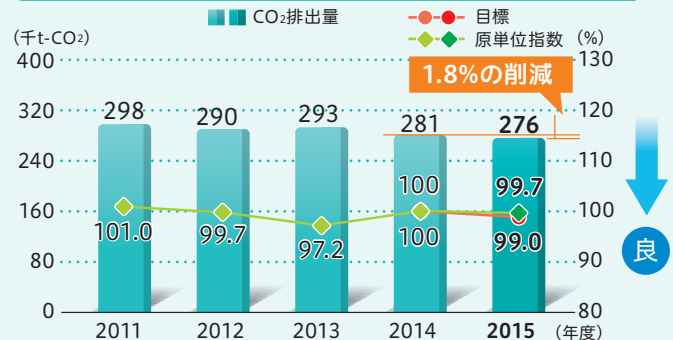
CO₂排出量とエネルギー使用量

2015年度のCO₂排出量の総量は、2014年度比で1.8%(約5千t-CO₂)の削減となりました。これは、主に照明のLED化・設備のインバーター化に取り組んだことと日頃からの地道な省エネ活動などを実施したことによります。(エネルギー使用量は2014年度比1.4%削減)

生産量原単位について、CO₂排出量原単位は2014年度比で0.3%削減、エネルギー使用量原単位は0.1%増加となりました。

長期目標の2015年度のCO₂排出量は対1990年比17.5%減となりました。(1990年262千t-CO₂、2015年216千t-CO₂。2010年からの継続目標のため、電力のCO₂換算係数は2010年度の値を使用。)

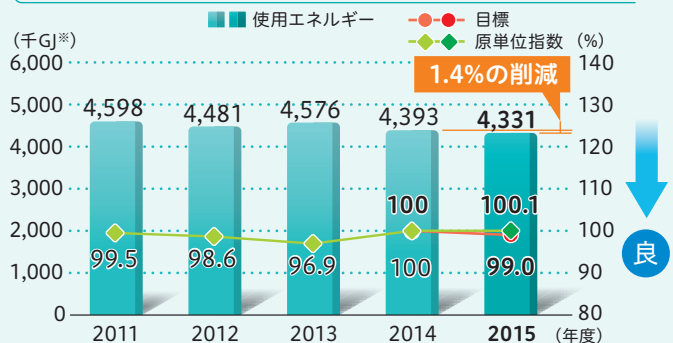
CO₂排出量と生産量原単位の推移



※算出根拠:地球温暖化対策の推進に関する法律に定められる排出係数による。(環境省平成22年3月改正)

※2011年度以降の電力のCO₂換算係数は、2013年度の値を使用しています。

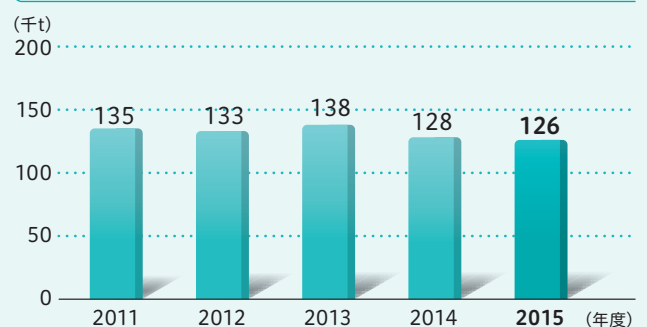
エネルギー使用量と生産量原単位の推移



※算出根拠 電力:エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則
熱使用:資源エネルギー庁「エネルギー源別発熱量表」

※GJ:ギガジュール

生産量の推移



省エネルギー部会の開催

省エネルギー活動の中期環境行動目標の達成に向けて、工場部門、物流部門および事務部門の改善を推進するために、定期的を開催しています。改善成功事例については、水平展開を図っています。



省エネルギー部会

地球温暖化対策(省エネルギー対策)(2)

輸送部門でのCO₂排出量

2015年度は、輸送量(重量×距離)が増加したため、CO₂排出量は、2014年度比2.9%増(460t-CO₂増加)となりました。CO₂排出量の輸送量原単位は、小ロット化が進み積載効率が下がったため、2014年度比1.2%増加となりました。

省エネルギー活動事例

冷却設備の制御改造による電力使用量削減

射水工場では、冷却設備の制御を改造することで電力使用量を削減しました。当工場の冷却設備は冷凍機、クーリングタワーおよびポンプ類で構成され、皮膜処理槽内の薬液冷却を行っています。今回、冷却水温度による変流量制御をすることで、ポンプの電力使用量を削減することができました。

営業車のガソリン使用量削減

全社有車を対象とした「エコドライブコンテスト」を実施し、燃費向上を競い合いました。また、低燃費車の導入も進めた結果、2015年度のガソリン使用量は2014年度比7.0%(85kl)削減しました。

節電活動

2015年夏、当社は電力の使用抑制のため、以下の節電活動に取り組みました。

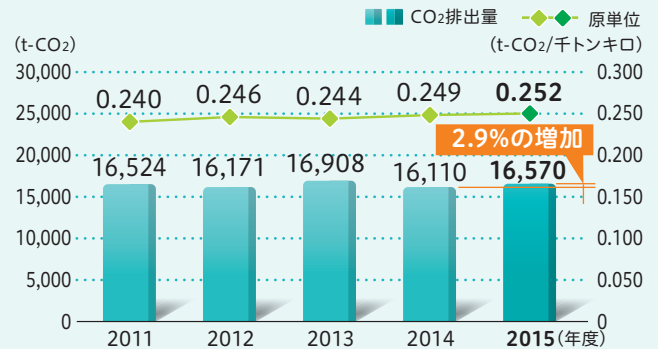
<生産拠点における節電対応策>

- 工場の一部押出・皮膜ライン等における勤務体制を見直し、休業日を現状の土曜・日曜から日曜・月曜にシフト実施(7月下旬～9月上旬)
- 工場内照明、空調及びコンプレッサー等関連設備の節電推進

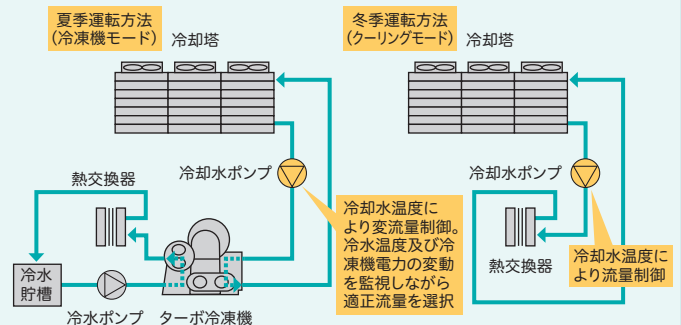
<本社・各営業拠点における節電対応策>

- 全社クールビズ活動を継続実施(5月中旬～10月中旬)
- エアコン使用時の室内温度を28℃に設定
- 照明のLED化推進および不使用エリアの消灯を徹底
- 自動販売機の運転時間を短縮
- パソコンのモニター輝度を約60%ダウン
- 離席時のパソコン省電力モード活用推進と帰宅時のパソコン・プリンターの電源OFFの徹底

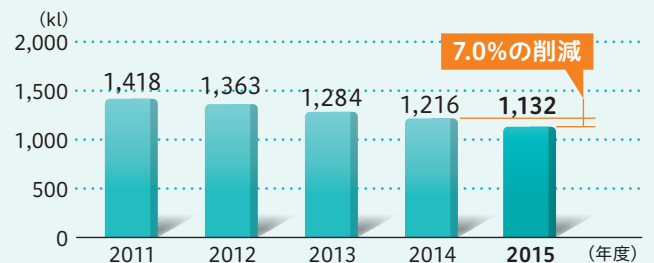
輸送部門のCO₂排出量と原単位



●冷却設備概略図



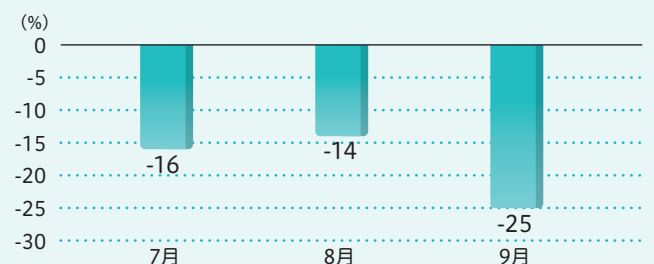
営業車のガソリン使用量



●全支店の節電活動実績(2015年7～9月)

- ・電力使用量(kWh)：
2010年度比 約18%削減(震災前と比較)

2015年度電力使用量(2010年度比)



廃棄物と省梱包

廃棄物対策

三協立山グループでは生産工程から定常的に発生する産業廃棄物の排出量抑制とリサイクル率向上に取り組んでいます。

産業廃棄物排出実績

2015年度の産業廃棄物排出量は、2014年度比2.5%削減(0.7千t減)となりました。これは皮膜工程で発生する廃酸の排出量を削減したことによるものです。リサイクル率については、埋立量に変化がなかったため、昨年とほぼ同様の97.2%でした。

ゼロエミッション達成状況

2015年度は13工場中12工場でゼロエミッション(リサイクル率97%以上)を達成しました。

オフィス部門での取り組み

三協立山の当社では、事業系一般廃棄物の削減に取り組んでいます。2015年度は古紙分別の徹底により、2014年度比1.5%削減(1.0t減)しました。

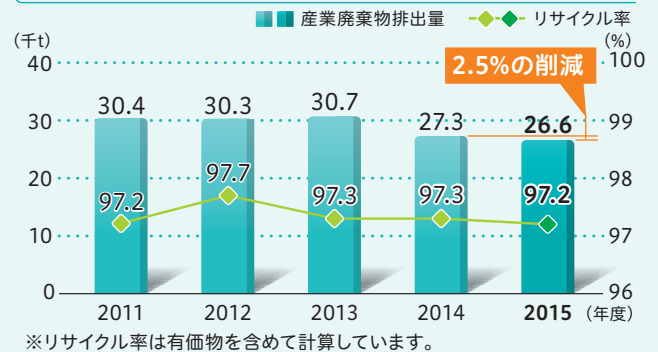
省梱包への取り組み

省梱包への取り組みとして、梱包資材の削減、梱包レスの推進、材質転換・統一化の3つの柱を掲げ、活動しています。

活動事例：荷崩れ防止方法の改善

従来、梱包されたシャッター本体を、生産工場から物流倉庫へ搬入する工程において、荷崩れ防止のためにPPバンドにて固定していました。今回、PPバンドから専用ベルトに変更することでリユース化をしました。これにより年間約600kgのPPバンドの廃棄物を削減しました。

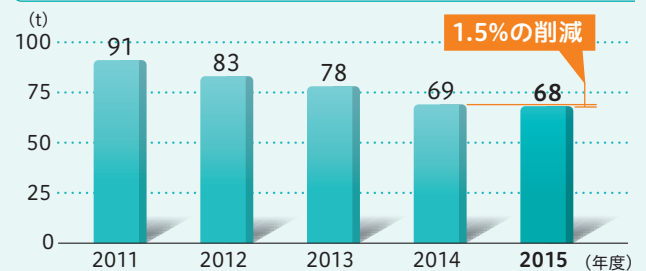
産業廃棄物排出量とリサイクル率の推移



産業廃棄物埋立量の推移



一般廃棄物排出量の推移



改善前



改善後

化学物質対策

三協立山グループでは、PRTR*対象物質の管理および使用量の削減に努めています。

*PRTR(Pollutant Release and Transfer Register：環境汚染物質排出・移動登録)

化学物質管理

関連会社も含めた2015年度のPRTR制度に基づく報告対象物質の取扱量の合計は、513.5tです。このうち、大気、水域への排出量は、取扱量の35% (179.2t)に相当し、その内の多く(159.6t)が大気に排出されています。(公共水域への排出量は19.6t)

大気排出量が多い物質は、塗装工程の溶剤であるトルエン、キシレン、エチルベンゼンの3物質で、大気排出量の87%(139.4t)を占めています。

以下にPRTR届出義務対象化学物質の排出量、移動量などを示します。

PRTR届出義務対象物質(関連会社含む)

集計期間：2015年4月～2016年3月

(単位：t/年 ただし、ダイオキシン類はmg-TEQ)

番号	化学物質名	主な用途	取扱量	排出量			移動量		除去処理量	消費量
				大気	水域	土壌	リサイクル	廃棄物		
31	アンチモンおよびその化合物	難燃剤	1.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	1.4
53	エチルベンゼン	製品塗装	35.0	30.4	0.0	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0
80	キシレン	製品塗装、加熱炉等の燃料	66.7	60.8	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0
87	クロムおよび3価クロム化合物	アルミビレットの原料に配合	27.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	26.5
186	ジクロロメタン	ラッピング接着	7.5	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
243	ダイオキシン類	—	—	104.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリエチルアミン	製品塗装	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	製品塗装、加熱炉等の燃料	2.8	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	製品塗装	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300	トルエン	製品塗装	69.5	48.2	0.0	0.0	21.3	0.0	0.0	0.0
305	鉛化合物	製品塗装、アルミビレットの原料に配合	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.5
308	ニッケル	表面処理	9.5	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	9.1
309	ニッケル化合物	表面処理	26.0	0.0	2.5	0.0	0.4	1.4	0.0	21.8
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	塩ビの可塑剤	150.7	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	144.2
374	フッ化水素およびその水溶性塩	アルミビレット製造時の溶湯除滓剤	8.9	0.4	1.7	0.0	0.1	0.0	0.0	6.7
392	ノルマルヘキサソ	シーリング剤付着ハケの洗浄	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
405	ホウ素およびその化合物	表面処理	18.9	0.0	15.2	0.0	0.4	0.6	0.0	2.7
412	マンガンおよびその化合物	アルミビレットの原料に配合	45.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	45.4
438	メチルナフタレン	各種炉燃料	12.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.3
448	メチルビス(4,1-フェニレン)ジイソシアネート	ラッピング接着、発泡ウレタン	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	18.6
合計			513.5	159.9	19.6	0.0	39.5	4.1	0.0	290.5

※上記集計表には、PRTR届出に必要な取扱量に達していない事業所の実績は含まれていません。

※リサイクル：対象物質を再生業者に引き渡した量

※除去処理量：除去処理を目的に対象物質が中和・分解・反応処理などにより他の物質に変化させた量

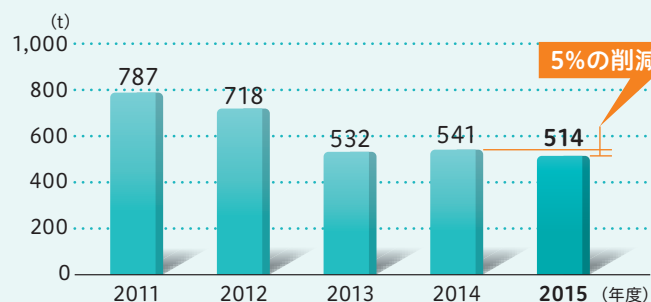
※消費量：対象物質が反応原料として消費された量、または製品に含有もしくは付着して場外に持ち出される量

化学物質使用量

当グループは、「化学物質ガイドライン」を制定し、運用しています。「化学物質ガイドライン」運用の目的は、商品に使用する部品・部材などに含有する環境負荷物質について、使用禁止レベル(禁止・削減・管理)を明確にし、環境品質を維持・向上することです。

2015年度の化学物質使用量は、PRTR対象物質において、2014年度比5%(27t)の削減となりました。主な理由は、燃料において灯油の一部をLNGに転換したことによるものです。

PRTR対象物質使用量



水資源対策／法規制遵守

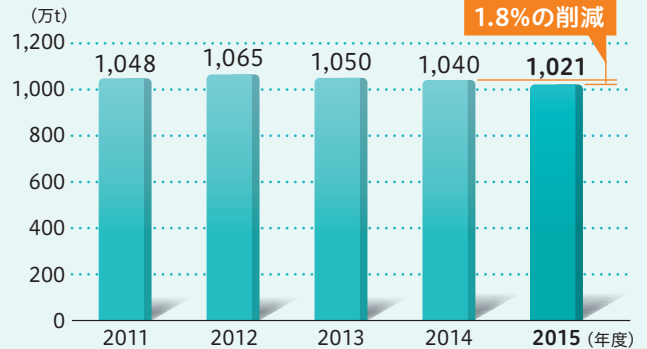
三協立山グループでは、環境に関する法規制の遵守を基本として、事業活動を進めています。事業活動に係わる法律や各地域における協定などの遵守はもちろんのこと、より厳しい自主基準を設けて管理しています。

水資源対策

水資源対策として工業用水、地下水などの使用量削減に取り組んでいます。

2015年度の水資源使用量は、前年度比1.8%削減(19万t減)となりました。これは水資源を多量に使用する皮膜工程での生産量が減少したことによるものです。

水資源使用量の推移



PCB管理

当グループでは、PCBを含む電気工作物、安定器についてPCB廃棄物特別措置法に準拠して適正に処理、保管および管理をしています。

高濃度PCB廃棄物については、処理可能なものは2014年度に全て完了しました。低濃度PCB廃棄物については、適正に保管および管理をしています。

●PCB管理対象機器台数一覧 (2016年3月31日現在) 単位:台

拠点名	高濃度PCB廃棄物		低濃度PCB		
	保管		保管		使用中
	電気工作物	安定器	混入廃棄物 (分析サンプル除く)	混入の 可能性がある 電気工作物	混入 電気工作物
新湊	0	0	1	0	7
福光	0	0	8	0	0
福岡	0	0	8	4	21
氷見	0	0	0	0	1
福野	0	0	7	0	0
射水	0	0	13	0	8
高岡	0	0	3	0	0
奈良	0	0	2	0	8
横浜	0	1	0	0	0
三協立山本社	0	0	15	0	5
長慶寺(本社管轄)	0	0	18	1	0
奈良物流センター(本社管轄)	1	0	5	0	0
協立アルミ	0	0	13	0	0
三協化成	0	0	1	0	0
合計	1	1	94	5	50

※上記集計表には、使用中の蛍光灯安定器で、PCB含有有無が未確認のものについては含まれていません。



(2014年度)搬出するPCB廃棄物入りペール缶(奈良物流センター)



(2014年度)中間貯蔵・環境安全事業(株)へのPCB廃棄物搬出作業

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムは、構築したシステムを継続的にレベルアップしていくことが重要です。このことが社会的責任を果たすことであると考え、さらに環境マネジメントシステムを充実させていきます。

ISO14001の認証取得

三協立山では、2008年度までに全ての工場および生産系関連会社において、ISO14001を認証取得しました。

ISO14001の取得は、環境マネジメントシステム構築の基本となるため、維持更新を図り、継続的にレベルアップに努めています。

環境パトロールの実施

当グループでは、環境事故の未然防止、環境保全意識の向上および法令遵守を目的に、毎年関連会社も含めて全工場の環境パトロールを実施しています。契約書類、届出書類などが法令に準拠しているか、環境測定データが基準値を外れていないか、タンク類が液漏れを起こす危険性がないかなどについて書類チェックおよび現場確認を行っています。

2015年度は、法令違反等はありませんでした。なお、軽微な指摘事項については、迅速に改善しています。

今後も環境パトロールを継続して実施し、環境事故の未然防止に努めていきます。

産業廃棄物処理業者の視察

当グループでは、グループ内から排出された産業廃棄物が法令に準拠して適正に処理されているか確認するため、毎年計画的に産業廃棄物処理業者の視察を実施しています。

2015年度は、4業者を視察しましたが、いずれの業者も適正に処理していることが確認できました。

今後も継続的に視察を実施し、産業廃棄物の適正処理の確認に努めていきます。

緊急事態への対応(射水工場の例)

射水工場では、毎年地震・火災・人災を想定した緊急事態対応の訓練を実施しています。

今回は押出機の地下ピットでの火災を想定した総合防災訓練を実施しました。消火のため放水した際に油水が発生しますが、その油水流出防止訓練を実施しました。

今後も毎年、訓練を繰返し行うことで有事の際に各人がどのような行動を取るべきかを再確認していきます。



戸出工場



三精工業



視察風景



油水流出防止訓練



報告風景

環境コミュニケーション(1)

ツインリーフの森づくり

三協立山は、生物多様性の保護、CO₂の削減および地域の自然保護活動に貢献することを目的に、富山県が推奨する「企業の森づくり」に2013年4月から参画しています。高岡市の雑木林に従業員とその家族のボランティアで、これまでに1,500本の苗木を植樹し、下草刈などの維持活動を行っています。

この森づくり活動は3年を経過しましたが、参加者は年々増加しており、従業員の環境保全や社会貢献に対する意識向上を実感できるイベントとなっています。

当社の活動の特徴は、子供たちの参加が多いことです。体験する機会が少ない森づくり活動を通じて、植樹した苗とともに大きく育てて欲しいとの思いも寄せられています。

活動実績

下草刈 2015年8月2日(日)参加者28名

夏の暑い中、参加者で苗木の周りの草を鎌で刈りました。

作業後、汗だくになりながらの丸太切り競争で、大いに盛り上がりました。

植樹 2015年11月8日(日)参加者116名

当社山下社長も参加し、コナラなどの苗木500本を植樹したほか、2年前のイベントで鉢植えし育てた苗木を持ち寄り、一緒に植樹しました。

その後、高岡市産業振興部長と子供たちによって、雑木で覆われていた林内歩道の整備・開通記念のテープカットを行いました。

根踏み 2016年4月24日(日)参加者93名

春の暖かさが感じられる中、雪の下で冬を越した苗木の根踏みを行いました。

作業後は、しいたけ植菌とわりばし工作で子供たちに楽しんでもらいました。

県民参加の森づくりフォーラム

2015年11月に富山県民会館にて「県民参加の森づくりフォーラム」が開催され、企業が取り組む森づくりとして当社の「ツインリーフの森づくり」の紹介と今後の課題について話をしました。

※「県民参加の森づくりフォーラム」とは

平成29年春、天皇后両陛下がご臨席される「全国植樹祭」のプレイベントとして、県民参加の森づくり活動をさらに広げる契機として、富山県が主催したものです。

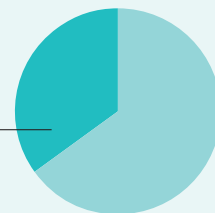


参加者全員で記念撮影

○今年度の活動参加者

延べ **237**名

うち、子供**83**名
(全体の35%)



暑い中での下草刈(左) 丸太切り競争(右)



山下社長と一緒に植樹(左) 林内歩道開通式(右)



根踏みで苗が根付くように(左) しいたけ植菌(右)



フォーラムにパネリストとして参加した、当社総務部CSR・コンプライアンス推進課村澤副参事(左:石井富山県知事)

環境コミュニケーション(2)

三協立山グループは、環境保全活動や環境負荷低減活動を地域社会、行政、従業員などのステークホルダーの方々と連携しながら推進しています。

グリーンカーテンコンテスト

従業員の環境意識の向上と家庭の節電やCO₂削減を目的として、「グリーンカーテンコンテスト」を実施しました。カーテンの出来栄やアイデアなどが特に優れている作品を、優秀賞として選出し、景品を贈呈しました。

参加者の声

- 昼間はほとんどエアコンをつけず、窓全開で扇風機のみで過ごすことができたので、かなりの節電になったと思います。
- いろいろな虫が寄ってくるので、ネットで調べたり観察するのがわりと楽しいです。
- 今年は我が家の子供たちと一緒に日曜大工で木枠作りに挑戦しました。

環境家計簿

当グループでは、より多くの従業員が環境について理解を深め、主体的に取り組むことができるように、「環境家計簿」(家庭でのCO₂削減の取り組み:2006年度より取り組み開始)を継続して実施しています。

現在までに延べ935世帯が参加しており、家族で相談しながらCO₂削減に取り組んでいる家庭も多くあります。前年比でCO₂排出量を大きく削減するなど優秀な実績をあげた参加者には景品を贈呈し、家庭でのCO₂削減活動の活性化を促進しています。

今後もこの取り組みを継続して実施し、環境に対する意識向上に努めていきます。

とやま環境フェア

2015年10月に、「とやま環境フェア2015」が、富山産業展示館(テクノホール)で開催されました。このフェアは、エコライフをテーマに富山県などの主催で毎年開催されており、当社も毎年出展して、環境配慮商品の展示や環境への取り組みを紹介しています。

クールビズ、ウォームビズ運動

当グループは、環境省が地球温暖化防止国民運動として提唱する「クールビズ運動」、「ウォームビズ運動」に賛同し、2005年度より継続して実施しています。

2015年度は、クールビズ期間を5月～10月、ウォームビズ期間を11月～3月として実施しました。

【冷暖房設定温度】 【服装】

クールビズ:28℃ クールビズ:ノーネクタイ、ノー上着
ウォームビズ:20℃ ウォームビズ:ネクタイ着用、寒い時は着る

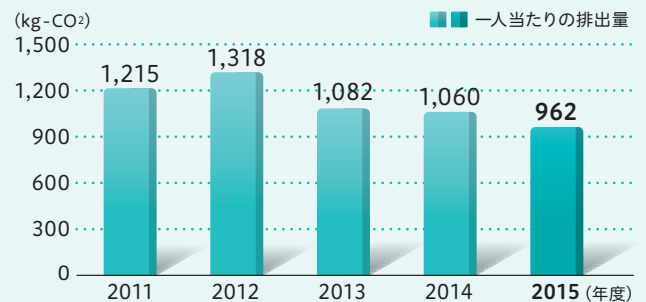


グリーンカーテンコンテスト優秀賞



事務所や工場でもグリーンカーテンを推進しています

環境家計簿参加者のCO₂排出量推移



来場者への説明風景

COOLBIZ

冷房時の室温を
28℃に設定しております。

実施期間
2015年5月11日～10月30日

地球温暖化防止と省エネルギーのために、
みなさまのご協力をお願いします。

地球も・オフィスも・こころよく
三協立山株式会社

WARMBIZ

時の室温を20℃に設定しております。

実施期間
2015年11月1日～2016年3月31日





地球温暖化防止と節電・省エネルギーのために
みなさまのご協力をお願いします。

地球も・オフィスも・こころよく
三協立山株式会社

クールビズ・ウォームビズ啓発ツール

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2015年度)

三協アルミ社

工場名			新湊	佐加野	福光	福岡	
項目							
所在地			富山県射水市新堀23-1	富山県高岡市佐加野2-2	富山県南砺市小林100	富山県高岡市福岡町矢部1	
敷地面積	m ²		403,588	149,023	118,215	112,568	
建物延面積	m ²		155,847	79,963	55,308	58,613	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂		10,209	2,941	3,501	18,934	
エネルギー使用量	GJ		172,906	45,007	53,553	318,458	
産業廃棄物排出量	t		814	32	38	3,717	
産業廃棄物リサイクル率	%		98.9	100	99.9	99.4	
水資源使用量	t		608,377	113,393	30,837	681,841	
排出ガス	SOx濃度	ボイラー	ppm	—	【490以下】 35.7	—	—
	ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	【0.2以下】 <0.02	【0.15以下】 <0.01	—	【0.1以下】 <0.01
		乾燥炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.2以下】 <0.01
		加熱炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.2以下】 <0.01
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	【150以下】 32	【180以下】 140	—	【150以下】 8
		乾燥炉	ppm	—	—	—	【230以下】 15
加熱炉		ppm	—	—	—	【180以下】 31	
公共用水域	pH	—	【6.0~8.5】 6.5~8.0	【6.5~8.5】 6.0~8.5*	【5.8~8.6】 7.6	【5.8~8.6】 7.2~7.6	
	BOD	mg/l	—	【20以下】 17.0	【20以下】 2	【20以下】 16.0	
	COD	mg/l	【20以下】 6.8	【20以下】 4.6	—	【160以下】 15	
	SS	mg/l	【50以下】 <5.0	【30以下】 16.5	—	【30以下】 15	
	油分	mg/l	【3以下】 <0.5	【3以下】 <0.5	—	【5以下】 <1	
	ホウ素	mg/l	【10以下】 0.2	—	—	—	
	クロム	mg/l	【2以下】 <0.2	—	—	—	
	六価クロム	mg/l	【0.5以下】 <0.02	—	—	—	
	フッ素	mg/l	【15以下】 <0.8	—	—	—	
	全窒素	最大	mg/l	【60以下】 6.6	【60以下】 5.2	—	【120以下】 2.7
	全りん	最大	mg/l	【8以下】 0.72	【8以下】 0.5	—	【16以下】 0.03
	PRTR取引量	エチルベンゼン	t	6.8	—	—	—
キシレン		t	17.0	—	—	—	
ジクロロメタン		t	—	—	—	1.0	
1,2,4-トリメチルベンゼン		t	3.5	—	—	—	
トルエン		t	35.0	—	—	—	
ニッケル		t	—	—	—	0.8	
ニッケル化合物		t	2.4	—	—	—	
ノルマルヘキサン		t	1.2	—	—	—	
ホウ素およびその化合物		t	—	—	—	8.3	
メチルナフタレン		t	—	—	—	—	

①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。

②「-」の項目は基準値がない対象施設のない項目です。

③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx: 硫酸酸化物濃度、NOx: 窒素酸化物濃度、pH: 水素イオン濃度、BOD: 生物学的酸素要求量、COD: 化学的酸素要求量、SS: 水中懸濁物質濃度

④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

※佐加野工場の pH 基準値外は、酸性雨によるものです。その後の測定結果では基準値内となっています。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2015年度)

三協アルミ社

タテヤマアドバンス社

工場名			氷見	福野	射水	横浜				
項目										
所在地			富山県氷見市上田41-2	富山県南砺市本江2600-1	富山県射水市奈呉の江13-3	神奈川県横浜市金沢区大川6-1				
敷地面積	m ²		68,575	118,012	268,119	29,386				
建物延面積	m ²		21,558	53,157	130,016	12,318				
CO ₂ 排出量	t-CO ₂		830	3,288	122,443	1,011				
エネルギー使用量	GJ		12,788	50,776	1,928,462	17,708				
産業廃棄物排出量	t		21	15	19,318	113				
産業廃棄物リサイクル率	%		100	99.9	98.1	100				
水資源使用量	t		2,785	37,510	6,411,021	2,784				
排出ガス	SOx濃度	ボイラー	ppm	—	—	—	—			
	ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	【0.1以下】	0.01	—	【0.1以下】	<0.01		
		乾燥炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.15以下】	<0.03		
		加熱炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.15以下】	<0.11		
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	【140以下】	98	—	【180以下】	85		
		乾燥炉	ppm	—	—	—	【230以下】	39		
加熱炉		ppm	—	—	—	【180以下】	100			
公共水域	pH	—		【5.8~8.6】	6.8~7.6	【5.8~8.6】	6.7	【6.0~8.5】	6.0~8.4	—
	BOD	mg/l		【30以下】	2.1	【20以下】	2.9	【20以下】	8.5	—
	COD	mg/l		—	—	—	—	【20以下】	3.1	—
	SS	mg/l		【50以下】	4.0	【10以下】	5.0	【50以下】	26	—
	油分	mg/l		【15以下】	<1	【15以下】	ND	【2以下】	ND	—
	ホウ素	mg/l		—	—	—	—	【10以下】	2.9	—
	クロム	mg/l		—	—	—	—	—	—	—
	六価クロム	mg/l		—	—	—	—	—	—	—
	フッ素	mg/l		—	—	—	—	【8以下】	0.3	—
	全窒素	最大	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	全りん	最大	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	キシレン	t		1.1	—	—	—	—	—	—
	トリエチルアミン	t		—	—	—	—	8.3	—	—
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t		1.2	—	—	—	—	—	—
	ニッケル	t		—	—	—	—	7.0	—	—
	ニッケル化合物	t		—	—	—	—	23.4	—	—
	ホウ素およびその化合物	t		—	—	—	—	6.2	—	—
メチレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート	t		4.1	—	—	—	—	—	—	

①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。

②「-」の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。




③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx:硫黄酸化物濃度、NOx:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2015年度)

三協マテリアル社

工場名		高岡	新湊東	石川	奈呉	戸出						
項目												
所在地		富山県高岡市北島851	富山県射水市新堀28-1	石川県羽咋郡宝達志水町杉野屋ぬい1-1	富山県射水市奈呉の江8-3	富山県高岡市戸出春日802						
敷地面積	m ²	95,825	78,264	146,963	151,457	12,653						
建物延面積	m ²	56,385	13,398	42,195	41,879	6,035						
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,832	9,032	23,542	71,857	1,969						
エネルギー使用量	GJ	28,339	138,489	378,135	1,120,579	29,018						
産業廃棄物排出量	t	60	14	1,653	763	37						
産業廃棄物リサイクル率	%	99.9	95.8	100	86.5	98.6						
水資源使用量	t	79,375	81,874	543,506	1,361,398	21,088						
排出ガス	SO _x 濃度	ボイラー	K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—			
		乾燥炉	K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—			
		加熱炉	K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—			
		溶解炉	m ³ N/Hr	—	—	—	【4.56】	0.19	—			
	ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	—	—	【0.1以下】	<0.01	—	—			
		乾燥炉	g/m ³ N	—	—	【0.2以下】	<0.01	—	—			
		加熱炉	g/m ³ N	—	【0.2以下】	<0.01	【0.2以下】	<0.01	【0.15以下】	0.01		
		溶解炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.15以下】	0.05	—			
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	—	—	【150以下】	20	—	—			
		乾燥炉	ppm	—	—	【230以下】	21	—	—			
		加熱炉	ppm	—	【180以下】	14	【180以下】	96	【120以下】	41		
		溶解炉	ppm	—	—	—	【150以下】	66	—			
ダイオキシン	溶解炉	ng-TEQ/m ³ N	—	—	—	【5以下】	0.13	—				
公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】	6.3~8.4	【5.8~8.6】	6.8~7.7	【5.8~8.6】	6.4~7.4	【5.5~8.5】	7.0~7.4	【5.8~8.6】	7.8
	BOD	mg/l	【20以下】	16	—	—	【30以下】	6.3	—	—	【25以下】	4.2
	COD	mg/l	—	—	—	—	—	—	【20以下】	2.6	—	—
	SS	mg/l	【100以下】	26	—	—	【30以下】	3.0	【50以下】	3	【120以下】	ND
	油分	mg/l	【5以下】	1.5	【5以下】	<0.5	【5以下】	0.9	【3以下】	0.6	【15以下】	ND
	ダイオキシン	pg-TEQ/L	—	—	—	—	—	—	【10以下】	0.2	—	—
PRTR取引量	キシレン	t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	クロムおよび3価クロム化合物	t	—	—	—	—	—	—	27.2	—	—	
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	ニッケル	t	—	—	—	—	1.8	—	—	—	—	
	ニッケル化合物	t	—	—	—	—	1.6	—	—	—	—	
	フッ化水素およびその水溶性塩	t	—	—	—	—	1.2	—	7.7	—	—	
	ホウ素およびその化合物	t	—	—	—	—	2	—	2.9	—	—	
	マンガンおよびその化合物	t	—	—	—	—	—	—	45.6	—	—	
メチルナフタレン	t	—	—	—	—	—	—	12.0	—	—		

①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。

②「-」の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。

③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SO_x:硫酸酸化物濃度、NO_x:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2015年度)

関連会社

項目		工場名	協立アルミ		三協化成		STメタルズ(西朴木)		STメタルズ(海老坂)	
所在地			富山県南砺市久戸10		富山県高岡市福岡町下向田3-1		富山県氷見市西朴木38		富山県氷見市上田子字笹谷内58	
敷地面積	m ²		116,000		66,743		41,996		110,240	
建物延面積	m ²		62,000		16,435		14,684		11,514	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂		2,520		3,943		643		752	
エネルギー使用量	GJ		634,507		59,160		9,955		11,652	
産業廃棄物排出量	t		1,965		213,341		23		934	
産業廃棄物リサイクル率	%		99		97.0		99.2		98	
水資源使用量	t		35,838		156,967		1,896		2,106	
公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】	6.5	【5.8~8.6】	8.1	【5.8~8.6】	7.4~8.0	【5.8~8.6】	7.0~9.7*
	BOD	mg/l	【20以下】	1.3	【10以下】	0.6	—	—	【160以下】	7.5
	COD	mg/l	—	—	—	—	【30以下】	12.0	【160以下】	19.0
	SS	mg/l	【70以下】	<1	【10以下】	<2	【70以下】	4	【200以下】	10
	油分	mg/l	【5以下】	<1	【3以下】	<0.7	【3以下】	<1	—	—
	クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—
	六価クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—
	亜鉛	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—
	溶解性鉄	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—
	シアン	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—
P R T R 取扱量	アンチモン	t	—	—	1.4	—	—	—	—	—
	キシレン	t	—	—	—	—	—	—	—	—
	ジクロロメタン	t	6.5	—	—	—	—	—	—	—
	トリメチルベンゼン	t	—	—	—	—	—	—	—	—
	鉛化合物	t	—	—	0.3	—	—	—	—	—
	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	t	—	—	150.7	—	—	—	—	—
	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	t	13.4	—	—	—	—	—	—	—

※ STメタルズ(海老坂)の pH 基準値超過は、水中の藻の影響によるもので、排水自体は問題ありません。

項目		工場名	三精工業(本社)		三精工業(有磯)		三協ワシメタル	
所在地			富山県射水市奈呉の江13番地の8		富山県射水市有磯二丁目33番地の4		富山県高岡市長慶寺575	
敷地面積	m ²		46,326		30,533		24,000	
建物延面積	m ²		30,533		16,150		15,503	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂		2,546		1,042		6,454	
エネルギー使用量	GJ		44,111		18,198		95,977	
産業廃棄物排出量	t		936		399		653	
産業廃棄物リサイクル率	%		89.2		97.6		98	
水資源使用量	t		350,737		109,481		123,465	
公共用水域	pH	—	【6.0~8.0】	6.6~7.4	【6.0~8.0】	6.4~7.4	【5.8~8.6】	7.2~7.8
	BOD	mg/l	—	—	—	—	【20以下】	4.3
	COD	mg/l	【20以下】	8.3	【20以下】	5.5	—	—
	SS	mg/l	【20以下】	9.0	【20以下】	5.0	【100以下】	<2
	油分	mg/l	【3以下】	0.7	【3以下】	1.1	【5以下】	0.8
	クロム	mg/l	—	—	【0.3以下】	0.11	—	—
	六価クロム	mg/l	—	—	【0.15以下】	0.1	—	—
	亜鉛	mg/l	—	—	【3以下】	1.9	—	—
	溶解性鉄	mg/l	—	—	【5以下】	0.62	—	—
	シアン	mg/l	—	—	【0.25以下】	0.05	—	—
P R T R 取扱量	エチルベンゼン	t	27.6	—	—	—	0.011	—
	キシレン	t	49.8	—	—	—	0.08	—
	1,3,5-トリメチルベンゼン	t	1.8	—	—	—	—	—
	トルエン	t	35.6	—	—	—	0.217	—
	鉛化合物	t	—	—	—	—	—	—

項目		工場名	サンクリエイト	石川精機	三協サーモテック行田	三協サーモテック上野原
所在地			富山県南砺市岩武新80番地の1	愛知県西尾市寺津町五十間7	埼玉県行田市富士見町1-12-13	山梨県上野原市上野原8154-25
敷地面積	m ²		47,082	11,119	11,513	9,580
建物延面積	m ²		7,672	6,030	5,505	3,234
CO ₂ 排出量	t-CO ₂		1,912	2,170	373	582
エネルギー使用量	GJ		39,513	50,996	7,146	11,144
産業廃棄物排出量	t		48	140	3.75	0.00
産業廃棄物リサイクル率	%		68	93	92.8	98.5
水資源使用量	t		5,567	3,224	538	538

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2015年度)

関連会社(海外)

項目	会社・工場名	SANKYOTATEYAMA PHILIPPINES INC.	佛山三協電子有限公司	Sankyo Engineering (Thailand) Co.,Ltd.	上海立山商業設備有限公司
国名		フィリピン	中国	タイ	中国
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	124	367	744	1,910
エネルギー使用量	GJ	2,423	5,510	14,843	27,008
産業廃棄物排出量	t	148	1	134	609
水資源使用量	t	10,121	1,723	4,680	22,473

環境保全活動の歩みとグループのこの一年

〈環境保全活動の歩み〉

- 1967年 ●公害対策基本法制定
- 1971年 ●本社技術部に公害防止対策部署を設置
[三協アルミ](以降 各工場に環境保全課を設置)
- 1993年 ●環境基本法制定
●ボランティアプラン策定[三協アルミ]
(環境理念・環境スローガンの制定)
- 1996年 ●特定フロン全廃完了
- 1998年 ●福光、福野工場の表面処理設備廃止
- 1999年 ●立山合金 石川工場(現 石川工場) ISO14001認証取得
●全社の環境方針制定[三協アルミ]
(課題別委員会の設置、活動開始)
- 2000年 ●循環型社会形成推進基本法の制定
●新湊工場、氷見工場 ISO14001認証取得
●佐加野工場の表面処理設備廃止
●本社生産本部に環境対策部を設置[立山アルミ]
- 2001年 ●環境報告書の発行[三協アルミ]
●グループ全社でトリクロロエチレンの使用を全廃
●福野工場、佐加野工場 ISO14001認証取得
●富山軽金属(現 射水工場) ISO14001認証取得
●富山合金(現 奈呉工場) ISO14001認証取得
●社内向け「環境宣言」発表[立山アルミ]
(テーマ別委員会の設置、活動開始)
- 2002年 ●高岡工場 ISO14001認証取得
- 2003年 ●福光工場、福岡工場 ISO14001認証取得
- 2004年 ●三協化成 ISO14001認証取得
- 2005年 ●新湊マテリアル工場(現 射水工場)、新湊工場
都市ガス(天然ガス)の導入
- 2006年 ●三精工業、三協工機(現 戸出工場)、サンクリエイト、
協立アルミ、タテヤマメタックス(現 STメタルズ西杣木工場)
ISO14001認証取得
- 2007年 ●横浜工場 ISO14001認証取得
- 2008年 ●横浜工場 ISO14001を拡大取得
- 2011年 ●横浜工場めっき事業廃止
- 2013年 ●福岡工場、石川工場 天然ガスの導入
●高岡市と「森づくり」活動に関する協定調印
(森づくり活動開始)
- 2014年 ●グループ全社で高濃度PCB処理完了
- 2015年 ●全工場において産業廃棄物「電子マニフェスト」を運用
- 2016年 ●第1回環境委員会開催

〈グループのこの1年〉

- 2015年
 - 6月 ●三協アルミ「アルジオ」プレス発表会開催
●三協アルミ「リフォーム産業フェア2015」に出展
 - 8月 ●三協立山 第70回定時株主総会
●三協立山 JPX日経インデックス400に追加
●タテヤマアドバンス「第57回サイン&ディスプレイショウ」に出展
 - 9月 ●三協アルミ 3商品が「2015年度グッドデザイン賞」を受賞
 - 10月 ●Sankyo Tateyama Alloy(Thailand) Co.,Ltd. 新工場竣工式
●Thai Metal Aluminium Co.,Ltd.
展示会「Baan lae Suan Fair 2015」に出展
●三協アルミ 国際見本市「LIVING & DESIGN 2015」に出展
 - 11月 ●三協立山 経済産業省鈴木副大臣が新湊工場を視察
●三協立山「ツインリーフの森づくり」植樹活動を実施
●三協アルミ 「ARM-S@NAV」が平成27年度中部地方発表明彰で県知事賞を受賞
●三協アルミ 機能ボール「クルボ」が第53回富山県発明とくふう展で高岡市長賞を受賞
- 2016年
 - 2月 ●三協アルミ NEDOの助成事業に「DI窓」の技術開発が採択
 - 3月 ●三協アルミ 「第6回エコハウス&エコビルディングEXPO」に
「アルジオ」と「ファノバ」を出展
●三協アルミ 「NL-R NAV」が建材設備大賞特別賞を受賞
(主催:日経アーキテクチュア/日経ホームビルダー)
●ST Extruded Products Group
ドイツの建材展示会「FENSTERBAU」に出展
●三協アルミ 首都圏ショールームオープン1周年記念イベント開催
 - 4月 ●三協マテリアル 第3回高機能金属展に出展
●Sankyo Tateyama Alloy(Thailand) Co.,Ltd. 開所式
●三協アルミ 「エクステリア・エキシビジョン2016(EXE2016)」
に出展
●Thai Metal Aluminium Co.,Ltd. 展示会「architect'16」に出展
 - 5月 ●タテヤマアドバンス 「[関西] 外食ビジネスウィーク2016」に出展
●三協アルミ 四国SPC(三協アルミプレゼンセンター)新設
●三協立山 G7富山環境大臣会合開催および富山環境展に出展
●三協立山 熊本地震被害義援金を熊本県庁に贈呈

三協立山グループ 「CSR 報告書 2016」を読んで



神戸大学大学院 経営学研究科
教授 國部 克彦

■ 地域社会の一員としてのCSR

三協立山グループの報告書では、山下社長のトップメッセージでも示されているように、「地域社会の一員として」のCSR活動が強調されています。特に今年度は、G7富山環境大臣会合への協力などを初めとして、様々な活動をされています。富山県に本拠を置く企業として、地域に溶け込む努力と活動は、大変重要であると評価できます。このような活動を積極的に継続されていることに敬意を表したいと思います。今後は、地域の方と積極的にダイアログ(討議)を実施されてはどうか? 地域貢献を積極的に推進するためには、地域のニーズを幅広くつかむことが大切です。そのためには双方向のコミュニケーションが重要で、そうすれば活動はより充実するでしょう。

■ 国際的な目標との連携を

2015年には国連から2030年を目指した「持続可能な開発目標(SDGs)とターゲット」が発表されました。その中の17目標の一つに、「包括的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」というものがあります。この目標は、地域社会の一員としての企業を目指す三協立山グループにとっても参考になるものと思われます。建材やマテリアルを本業とする三協立山グループにとって、安全で強靱な都市づくりに貢献することができれば、それは本業を通じた社会貢献といえましょう。それは国連による国際的な目標でもあるので、是非、今後の展開の一つとして検討されることをお勧めします。そのような活動は国際的なプレゼンスを高めることにも貢献するでしょう。

■ 目標達成へ向けた工夫を

三協立山グループでは、CSR活動や環境行動について、具体的な目標を立てて活動を推進しています。目標を立ててPDCAサイクルを回すことは、たいへん好ましいことですし、その評価も実施されていることはマネジメントサイクルが機能していることを示しています。定量的な情報開示も充実しています。ただし、今年度は目標未達成の項目がやや目立つようです。環境目標は、そのほとんどがアクションプランになっていますが、アクションプランの妥当性を検討されても良いかもしれません。すべての事項をアクションプランで常時改善していくことは無理がある場合もありますので、ベンチマークと併用するなど、工夫が必要になる時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。

三協立山 会社概要

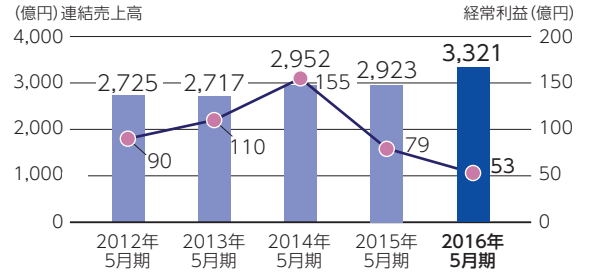
会社名 三協立山株式会社
 (英文名称 Sankyo Tateyama, Inc.)
設立年月日 1960年6月20日
所在地 本社 富山県高岡市早川70番地
 東京オフィス
 東京都中野区中央1-38-1<住友中野坂上ビル20F>
代表者 代表取締役社長 山下 清胤
URL http://www.st-grp.co.jp/

(2016年5月期)

資本金 150億円
従業員数 5,611名
連結従業員数 11,310名
連結売上高 3,321億68百万円
経常利益 53億95百万円
総資産 2,546億30百万円
事業内容

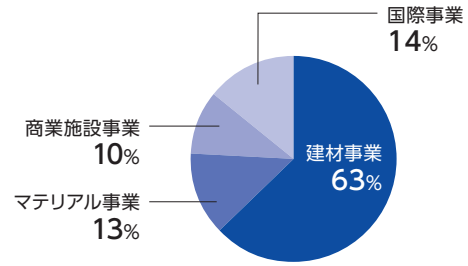
1. ビル用建材・住宅用建材・エクステリア建材の開発・製造・販売。アルミニウムおよびその他金属の圧延加工品の製造・販売。
2. アルミニウムおよびマグネシウムの鋳造・押出・加工ならびにその販売。
3. 店舗用汎用陳列什器の販売。規格看板・その他看板の製造・販売。店舗および関連設備のメンテナンス。

○連結売上高および経常利益



※2012年5月期までは三協・立山ホールディングス株式会社の実績

○事業別売上げ構成比 (2016年5月期)



三協立山株式会社

三協アルミ社<建材事業>

住宅建材

玄関ドア、窓、防犯配慮商品、インテリア建材、窓まわり商品、その他

エクステリア 建材

門扉、フェンス、カーポート、テラス、サンルーム、サイクルポート、通路シェルター、その他

ビル建材

サッシ・ドア、カーテンウォール、改装、フロント、手すり、内外装建材、環境商品、その他

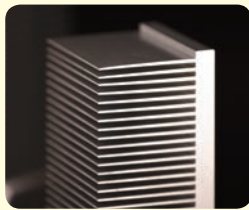


三協マテリアル社<マテリアル事業>

アルミニウム、マグネシウムの鋳造・押出・加工

押出加工品採用実績: 電気機器、輸送機器、産業機械、OA機器、土木・仮設資材、家具、福祉機材、その他

鋳造: アルミニウム合金ビレット、マグネシウム合金ビレット



タテヤマアドバンス社<商業施設事業>

商業施設 汎用・専用什器、カウンター、ディスプレイ什器、その他

サイン

スタンドサイン、ファサードサイン、突出しサイン、大型サイン、壁面・吊下げサイン、掲示板、屋内外サイン

店舗メンテナンス 店舗メンテナンス、店舗リニューアル

国際事業

海外でのアルミニウム鋳造、押出、加工

主要分野



技術

合金技術 中・高強度合金
押出技術 高精度・高難度
加工技術 高精度・高難度



編集方針

「CSR報告書2016」の発行にあたって

三協立山グループでは、ステークホルダーの皆様への適切な情報開示を重要と考えています。

2001年に「環境報告書」として環境保全活動に関する情報開示をスタートしました。2005年からは「社会・環境報告書」として社会性に関する取り組みについても報告してきました。そして2007年からは、より自主的に社会的責任を果たしていく姿勢を明示し、タイトルを「CSR報告書」と改め、現在に至っています。

当グループの経営理念は、「お得意先」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神です。この報告書の中で、経営理念に基づくさまざまな取り組みを紹介していますので、これらを通じて当グループをご理解いただけましたら幸いです。

対象期間

2015年6月1日から2016年5月31日

当報告書では、上記期間を「2015年度」と表記しています。

活動内容については、一部2014年度以前のもの、および2016年度のものも含まれます。

対象範囲

●三協立山株式会社

- ・三協アルミ社：新湊工場、佐加野工場、福光工場、福岡工場、氷見工場、福野工場、射水工場
- ・三協マテリアル社：高岡工場、新湊東工場、石川工場、奈呉工場、戸出工場
- ・タテヤマアドバンス社：横浜工場

- 関連会社：ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ、石川精機、三協ワシメタル、三協サーモテック、Sankyo Tateyama Philippines Inc.、佛山三協電子有限公司、Sankyo Engineering (Thailand) Co.,Ltd.、上海立山商業設備有限公司

参考にしたガイドライン

・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版、2007年版)」

・環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」



 三協立山株式会社

総務部 CSR・コンプライアンス推進課
〒933-8610 富山県高岡市早川170番地
電話 0766-20-2550 FAX 0766-20-2082
ホームページアドレス <http://www.st-grp.co.jp/>